



私の気持ち ぼくの声

八王子市子どもあこやか宣言普及啓発事業

平成23年度

はちおうじ

子どもミーティングの記録



八王子市

こども家庭部 水循環部 教育委員会

も く じ

子どもと考えるわがまちの未来（八王子市長 黒須 隆一）	2
「八王子市子どもすこやか宣言」と「子どもの権利条約」	3
八王子市が目指す子どもの参加のかたち	4
参加者募集	4
オリエンテーション	7
体験教室	9
学習会・ワークショップのすすめ方	11
子どもミーティング	15
子どもたちの提案	17
子どもたちの声（参加者感想文）	20
浅川シンポジウムで発表しました	28
“振り返りの時間” から（学生サポーター感想文）	29
水再生課・水環境整備課からのメッセージ	38
学生サポーターの活動	
・子どもの活動と参加	41
・子どもの参加を支える学生サポーター	42
・学生サポーターの研修	43
・学生サポーターより	45
子どもは社会の宝	48
名簿	49
子どもミーティングに協力していただいた方々	50



子どもと考えるわがまちの未来

去る8月21日、「はちおうじ子どもミーティング」を八王子市立第一小学校で開催いたしました。

3回目となる今年のテーマは「浅川」。本市では、八王子の大切な資源である浅川の、より一層の水辺活用に取り組んでおります。今回は、公募で集まった小学5年生から中学2年生までの22名の子どもたちが、子どもミーティングに参加し、浅川について学び、その将来を考えてくれました。

子どもたちは、7月26日のオリエンテーションを皮切りに、約1か月、計3回の活動に取り組みました。体験教室では、実際に浅川の上・中・下流を巡り、川のきれいさや生息している生き物の観察等を行い、また事前学習会では、これまで学び感じた思いを自分自身の考えとしてまとめるなど、入念な準備を行いました。

こうした活動を行ってきた成果として、8月21日の子どもミーティングでは、17名の子どもたちが、意見、提案を自らの言葉で発表しました。残念ながら当日参加できなかった子どもたちの意見も、学生サポーターが代弁して伝えてくれました。

子どもたちは、「浅川が好きだ」というとても純粋で率直な意見から、「浅川を中心に、人や地域の絆が深まるように」といった提案まで、様々な思いを、多くの傍聴の方がいる中で堂々と発表しました。子どもたちの発表は、体験教室や事前学習会で学んだ成果が存分に発揮されており、充実した学習をしてきたことがうかがえるものでした。

私は、子どもたちの思いに胸を打たれるとともに、子どもたちの意見を真摯に受け止め、できること、できないことを一つ一つ丁寧にお答えいたしました。

八王子の未来を担う子どもたちが“わがまち”のことを真剣に学び、考えることは大変重要なことです。しかし、それには私たちおとなの協力も欠かすことはできません。今回、子どもミーティングを開催するにあたり、御協力いただいた専門家の方や、約1か月にわたり子どもたちを支えてくれた20名の学生サポーターの皆様に心から感謝を申し上げます。

また、今後もこうした取り組みを継続し、市政に活かせることは積極的に取り入れるとともに、“地域の未来の担い手”を育てて参ります。

平成23年12月

八王子市長 黒須 隆一



「八王子市子どもすこやか宣言」と「子どもの権利条約」

「未来を担う子どもたちがみんな幸せに、そして責任あるおとなになってもらいたい。」「自然がたくさんある八王子でいきいきと生活し、自分の可能性を伸ばして欲しい。」「まわりの人と信頼しあえる関係を大切に、健康で個性豊かに成長して欲しい。」というのは、私たちの共通の願いです。

この願いを明文化し世界中の子どもが持っている権利を守る規範として、国連では「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」が平成元年（1989年）に採択され、日本も平成6年（1994年）にこれを批准しました。ここでいう権利とは「人権」のことであり、人間としての尊厳をもつ社会の一員として扱われるべきであるという意味です。

八王子市では「子どもの権利条約」の考え方を取り入れながら、平成13年2月に「八王子市子どもすこやか宣言」を行いました。

そして平成20年より、子ども議会などの活動をとおして、こうした考え方を広く市民のみなさんに知っていただく取り組みを行ってきました。今回実施した子どもミーティングもそのひとつです。

八王子市子どもすこやか宣言



- 1 わたしたちは、人にはみんな違いがあり、みんなよいところをもっていることを認めお互いに相手を尊重します。
- 1 わたしたちは、がまんすることの大切さを理解するとともに、好きなことに夢をもち元気にくらしします。
- 1 わたしたちは、しっかりと自分を表現し、自分の意見や行動に責任をもちます。
- 1 わたしたちは、子どもたち1人ひとりが大切にされ、安心して生活できる家庭を望みます。
- 1 わたしたちは、家庭や学校そして地域で学習する楽しさがわかり、自分の可能性を伸ばすことのできる環境を求めます。

平成13年2月4日 八王子市

八王子市が目指す子どもの参加のかたち

子どもの権利条約にある「子どもの発言」「子どもの社会参加」の具体的な取り組みとして行われたのが平成20年に本市が実施した子ども議会であり、より身近な参加スタイルになった平成21年度からの子どもミーティングです。

このような取り組みを単なるイベントとして終わらせるのではなく、きちんと「子ども参加」の権利を保障する継続的な事業としていくためには、「子どもが社会参加をする」という事業に対してのおとなの理解が不可欠です。子どもに参加や発言の機会をつくっても、その後の活動がおとなによって意図的にすすめられたものであっては意味がありません。子どもの活動はおとな側の仕掛けによって、“それらしく”できてしまうものであり、発言や結論を誘導することが可能だからです。形式的なだけの子どもたちの参加では私たちの考える目的は果せません。



本市はこうした課題に取り組むため、おとなと子どもの間に入り、“子どもが子どもらしく”じっくり活動に取り組むために、彼らに寄り添う身近なお兄さん・お姉さんの役割としての「学生サポーター」の育成、テーマに関わる市の所管課が協力する事前学習会、地域の中でテーマに関わる仕事をしている方や市民活動団体の方などの協力による体験教室など、子どもたちが見て、聞いて、感じて、友達と一緒にじっくり考え、自分の言葉で発言する、というスタイルをつくりました。

この報告集を通じて、子どもたちがたどった子どもミーティング本番までのプロセスを順に追っていただき、八王子市が取り組んでいる「子ども参加」の形をご覧いただければと思います。

参加者募集

【テーマについて】

今年度は、「浅川」をテーマにしました。

八王子の川を代表する「浅川」の資源を活かして、地域に親しまれる水辺づくりを進める市の取り組みに際し、八王子の将来を担う子どもたちの意見は大変貴重なものとなりました。

【応募について】

参加者は昨年同様、市内在住・在学の小学5年生～中学3年生を対象に公募しました。応募する子どもには川についての意見や質問を書いて送ってもらいましたが、どれも大変個性的なものでした。

応募作文

小学6年 松橋 卓未さん

ビオトープ、水草ゾーン、川を渡る飛び石、川の生き物と触れ合えるゾーン、公園、川に生息する生き物の写真や、生態、川のあれこれなどを紹介したり、道具を使って仕組みがわかるようなものが置いてある建物などで、「川の学習センター」があるといい。

そして、水遊びができる場所もあるといい。自由研究ができるように、長期休みの時は、メモをとったり、絵を書いたりするのに使うテントや仮設のテーブル、水槽を置いてくれると、とてもいいです。

自由研究のためにテントや仮設テーブル、水槽が欲しい、といった意見は、子どもの視点ならではですね。自分の思いや考えをしっかりとって参加してることが作文から読み取れました。

こうして市内在学・在住の小学5年生～中学2年生、22名の応募者が参加することになり、今年の子どもミーティングがスタートしました。



浅川って 知ってる？
第3回
子どもミーティング
参加者募集！

子どもが八王子市のまわりのことについて質問や意見をいう **はちおうじ子どもミーティング**。
 今年は8月21日(日)に開催します。
 今回のテーマは「**浅川って 知ってる？**」
今年の夏休み、あなたは市長・教育長とどんなことを話してみたいですか？

小学生のみ参加へ
 『浅川って 知ってる？ 八王子を代表する川だよ。じっくりと浅川で遊んだことはあるかな？ どんな生き物がいるんだろう？ 浅川のこと、もっと知りたくない？ みんなで浅川を巡視して、『私たちの大好きな川』にしちゃおう！』
 小学生のみ参加へ
 八王子を代表する川・浅川は、上流から下流に向けて、場所によって違う表情をしています。川の色、水たまり、におい、まわりの景色・・・。こんな浅川、知ってました？ 浅川を散歩して、遊んで、小学生の目から見た発見や提案をぜひ聞かせてください！

どんなことをするの？

- オリエンテーション(7月26日) 登勢会館(明神町)
子どもミーティングってどんなこと？とか、初めての顔合わせやテーマについてのお話をします。
- 体験教室(8月1日)
実際に浅川の上流から下流に行って、生き物や周りの景色、水の冷たさの違いを比べてみましょう。
- 学習会(8月9日) 登勢会館(明神町)
「浅川」の水辺活用や「川」のことに実際に取り組んでいる市役所の方がわかりやすく教えてくれます。
- はちおうじ子どもミーティング(8月21日) 市内内の学校
学習会や交流してきたことをもとに、「浅川」について直接市長・教育長と話します。

■応募方法: 住所・氏名・電話番号・学校名・学年、「こんな川で遊びたい」または「浅川がこうだったらいいな」など川について思うことを書いて、ハガキまたはファックスですのあて先まで送ってください。(字数制限なし)
〒192-0201 八王子市子どもしあわせ課「子どもミーティング」係

- 募集学年: 小学校3年生～中学校3年生
- 募集人数: 約25名(応募が多かったときは抽選になります。)
- 参加費用: 無料(会場までの交通費は自己負担です。)
- 募集締切: 平成23年6月22日(水)【必着】
- 先 着: 平成23年7月上旬 応募者全員に連絡連絡します。
- お問い合わせ: こども家庭課子どものしあわせ課 子どもミーティング係
電話 042-629-7391 FAX 042-623-7776 ちい2009@city.hachioji.tokyo.jp



オリエンテーション

日程:平成 23 年 7 月 26 日(火)
場所:八王子労政会館 会議室
内容:仲間作り、テーマについて、透視度計作り、
ワークショップ体験



体験教室

日程:平成 23 年 8 月 1 日(月)
場所:浅川上流【夕やけ小やけふれあいの里】、浅川中流【浅川渓谷】、浅川下流【八王子市役所前】
協力:東京都環境科学研究所 和波 一夫 氏
水循環部
内容:浅川各地点での生物調査、水質調査
(体験と担当者からの説明)



学習会

日程:平成 23 年 8 月 9 日(火)
場所:八王子労政会館 会議室
協力:東京都環境科学研究所 和波 一夫 氏
水循環部
内容:午前 体験教室のふりかえり 浅川についてのお話(和波氏、担当所管課職員より)
午後 ワークショップ「浅川について提案したいことをまとめよう」



子どもミーティング

日程:平成 23 年 8 月 21 日(日)
場所:八王子市立第一小学校
協力:八王子市立第一小学校
川上校長、徳丸副校長
教職員の皆様
内容:午前 リハーサル
午後 子どもミーティング



オリエンテーション（7月26日）

第3回目となる今年の子どもミーティングは、このオリエンテーションが幕開けとなりました。会場は、八王子労政会館です。

この日に行ったことを大きく分けると、アイスブレイク、川について話をしよう、ワークショップの3つです。

当日の朝、ミーティング参加者である子どもたちが、続々と元気な顔で会場へ訪れました。私は受付をしていましたが、子どもの様子は色々でした。緊張している子もいれば、友達同士で楽しそうに來たり、連続参加で既に貫禄をみせている子なんかも...!?この時会場の中は、机を端によせオープンな状態にしておいたことで、子どもたちとサポーターの距離が近づきやすかったようです。

参加者が集まり、初めにアイスブレイクをしました。午前中のアイスブレイクでは、互いの距離が縮むよう、握手をして名前と好きな食べものを言ったり、リーダーの指定した人数で集まる「ひつつき虫」というゲームなどを行いました。

そしてひつつき虫でできた、子どもとサポーター混ぜこぜの6~7人をグループとし、机を出してグループごとに自己紹介をしました。ここでは、「川でしたこと又はしたいこと」の話をメインにし、そのあとは、子どものしあわせ課の方が作ってくださった川クイズで盛り上がりました。川は楽しい!と感じられる良い機会になりました。

昼食後は、グループを組み直し、再びアイスブレイクをしました。そして次に水循環部の方による川のお話です。子どもたちは真剣な表情になり、メモを取っている子もいてとても心強く思いました。しかし一方でやっぱり居眠りをしてしまう子なんかもいて...、色んな子が参加しているを感じさせます。それが終わると次回の体験教室で使う「水の透視度計づくり」のコーナーです。子どもたちには、500mlの空ペットボトルを3本持参してもらい、一人一つ自分の透視度計を作成しました。まわりに絵を描いて、個性溢れる力作が沢山出来上がりました。

それから最後にワークショップを行いました。今回のテーマは「夏といえば...!?」です。テーマから連想されることを、どんどん付箋に書いていき、最後に班で模造紙にまとめます。とにかく思いついたことを何でも書いていくことがポイントです。ワークショップは、後日の学習会で最終的な意見のまとめに活用するのですが、これはその練習です。初めてやる子がほとんどにも関わらず、子どもたちの手は一向に止まらず、サポーターがストップをかけるまで延々と書き続けている子が沢山!!子どもの発想は無限です。

こうして今回のオリエンテーションは終了しました。緊張を解き、子どもミーティングを楽しいものだと感じてもらえることは、今後活動の中で、子どもたちの豊かな発想やヒラメキが出てくるかに大きく関係します。盛りだくさんの1日で、帰りには皆疲れ果てていたようですが、リラックスできる良い雰囲気を作れたオリエンテーションになったと思います。

（学生サポーター 大学3年 稲葉 麻衣子）

ゲームでアイスブレイク



僕が川でしたいことは...

はちおうじ子どもミーティング

オリエンテーションの一番の目的は仲間づくり。

子どもミーティングにおいて、みんなと話すことはとても重要です。それは、みんなと話すことで、自分一人では気付くことのできなかつた発見につながるからです。

今回のオリエンテーションでは、児童館職員による自己紹介ゲームを皮切りに、様々なゲームを行い、交流を深めました。その後は川の話や、グループに分かれての透視度計作り、「夏と言えば ！」をテーマとしたワークショップを行いました。

当日参加した子どもたちは次のような感想を寄せてくれました。

オリエンテーション感想文

小学6年 中川 貴就さん「楽しかったオリエンテーション」

7月26日のオリエンテーションでは、知らない人と触れ合い、遊んだのでとても楽しかったです。

また、絵を書くゲームでは、みんなで知恵を出し合い、協力して書いたので、まあまあの絵ができました。このゲームでは、色々な人と話すこともできたし、面白い案を考えられたりもしたので、とても交流を深めることができましたが、ぼくたちの班は少しずるをしました。でも、とても楽しかったです。

最後にやった「夏といえば～」というゲームでぼくたちの班が一番たくさん書けましたが、あまりにも多すぎたのでまとめるのが大変でした。

みんなと交流ができて、とても楽しかったし、うれしかったです。八月一日の体験教室が楽しみです。

オリエンテーション感想文

中学2年 楠元 玲香さん「子どもミーティングの感想」

私は、このような会に参加するのは初めてでした。最初は、小さい子たちばかりで正直、不安でした。けど、大学生と人とか部活の事など色々話しかけてきてくれたので嬉しかったです。

色々なゲームをしてたくさんの人と仲良くなることができたのでとても嬉しかったです。

川にいても、知っているようで知らないことがたくさんあったのでとても勉強になったし、これからもっと川について知りたいと思いました。



みんなで透視度計を作っています。
ちゃんと見えるかな??



夏と言えば・・・!?

体験教室（8月1日）

当日、最初に向かったのは夕やけ小やけふれあいの里でした。上流という事もあり、子どもたちは今まで家の近くで見ていた浅川と違う浅川を見て、テンションが上がっている様子でした。そのふれあいの里では、この日一日繰り返し行う透視度測定やパックテストのやり方を熱心に勉強する子どもたちでした。1メートルの透視度計でも底が見えるほどの浅川の綺麗さに驚いていました。また、その後生態調査のため、手網を持って頑張って生物採取に励んでいました。カワゲラの幼虫やシマドジョウなど色々な生物が採れ、生物の名前が知りたいと各班から次々と東京都環境科学研究所の和波先生を呼ぶ声が聞こえてきました。

そのふれあいの里に設置されていた、汚れて文字が薄くなっている「この先立入禁止」の看板を見た子どもは、「あの看板読めないよね。」と言っていたのが印象的でした。その言葉の数週間後に、「看板も川の一部なんです。有言実行で綺麗にしてください。」とミーティング本番で市長に発言していました。

今回、浅川の貴重な体験をさせてもらい子どもたちが、子どもミーティングで発言してくれた事はそれぞれの立場でとてもよい勉強になりました。

（学生サポーター 高専5年 吉野 弘敏）



和波さんの説明に子どもたちは興味津々。



この生き物の名前は・・・？



生き物の身体測定。

何センチ？

5センチくらい。



透視度測定中。

はちおうじ子どもミーティング

みんながとても楽しみにしていた体験教室。不安な天気をよそに「いっぱい魚とれる」「水着着てきたよ!」と子どもたちは気合い十分でした。出発したバスの中では、みんなで楽しめるようにと、ゲームをしたり、おしゃべりしたり...学生サポーターが奮闘していました。

まず訪れたのは、夕やけ小やけふれあいの里です。班ごとに透視度計、パックテストなどで川の様子を調べたり、水生生物を捕まえたりしていきます。少しぎこちなくしていた子どもたちも、班のメンバー全員で協力して作業していくうちに、学校、学年関係なく、どんどんうちとけていきました。その姿にとっても嬉しくなりました。

その後、北浅川渓谷の美しさに触れ、昼食を食べたら、ついに鶴巻橋到着です。そこでまずはゴミ拾い競争を行いました。優勝チームには商品があると聞き、必死になってゴミを探します。みんなでやるとあっという間にゴミが集まりました。意図的に置きっぱなしにしたようなひどいと思うゴミ袋もありました。次に各場所から持って来た浅川の水でおい当てクイズ。においをかいだり...色を比べたり...触って冷たさを感じたり...どれが上流で下流なのか分からないほど、どの地点でも浅川は綺麗だと実感できたようでした。こんなに綺麗な川に捨てられているゴミ。子どもたちも感じるものが多かった様です。そして次は待ちに待った川遊びです。ライフジャケットを着るともう大興奮!私も負けじとライフジャケットを装着し、子どもたちと一緒に川へダイブ!子どもたちのパワーに圧倒されながらも、童心に帰り思いっきり楽しみました。強い流れに戸惑ったり、冷たさに悲鳴をあげる子もいましたが、全身で浅川を感じる事ができたと思います。こんな風に遊べる川が近くにあることの素晴らしさを改めて感じる事ができました。川からなかなか上がろうとしない子もいて、本当に子どもたちは楽しんでいました。

そして、浅川を満喫した一日が終わりました。子どもたちが体験を通して、浅川を心から楽しい川だと思えたことが、本番での前向きな提案に繋がったのだと思います。

(学生サポーター 大学3年 畑野 智子)



ごみ拾いに奮闘中!!



川のおいあてクイズ。



どんな生き物がいるかな?



川遊びを満喫

学習会（8月9日）

学習会はまず体験学習にも同行して頂いた東京都環境科学研究所の和波一夫さんのお話から始まりました。和波さんは自身の過去の経験を交えながら子どもたちに川にはどのような危険性が潜んでいて、また体験学習の際にはそれらの危険性に対してどのような安全対策が取られていたかということ子どもたちに伝え、また子どもたちと一緒に体験学習の日に行ったことを振り返り、自分たちがペットボトルで作った川の水の透明度を測るための道具である透視度計やそれぞれの流域に住んでいた水生生物の種類などによって川を調べた結果を改めて見直し、それに基づいて浅川がどのような特徴を持った川なのかということをもみんなで考えたりする機会を子どもたちに与えてくれました。

和波さんの話が終わると次に八王子市役所の水循環部の方が普段の生活に関する水資源のリサイクルの話や、川をきれいな状態に保つためにどのような取り組みを行っているかなどを子どもたちに教えてくださいました。話はクイズ形式で進められ、全問正解すると水循環部オリジナル缶バッジという豪華な賞品をゲットできるとのことだったので子どもたちは必死になってクイズの答えを考えていました。賞品に対する熱意が高まり過ぎて少々落ち着きがなくなってしまうかもしれませんが、みんな普段身の回りの水がどのようにして供給されているのかということをしっかり学ぶことができたと思います。



和波さんと体験教室を振り返りました。

そしてお二方のお話が終わると次は待ちに待った昼食です。みんな川についての学習に少しばかり疲れていたのか、はたまた緊張が解け一気にお腹が空いたのか、はたまた午後のワークショップに向けての活力を補給するためかお弁当をべろりと平らげ残りの時間を楽しそうにリラックスして過ごしていました。



どんどん意見を出していこう！

昼食を終え午後からは市長に提言する意見をまとめ上げるためにワークショップを行いました。それぞれの班のワークショップはどれも特徴的で、開始直後から意見が飛び交う班もあれば、最初はあまり意見が出なかったけど学生サポーターや市役所の方の力を借りて、段々と自分なりの意見を築き上げていった班もありました。みんな意見を作り上げることにすごく意欲的で、中には直接和波さんや水循環部の方に質問をしにいった子や時間が過ぎても最後まで残って自分の意見の内容を推敲している子もいました。

最終的に時間内に意見をまとめることができず家に持ち帰って完成させた子もいましたが、ワークショップを行っている最中はみんな自分が考えていることを相手にも伝えるよう工夫して発言し、また他の子の意見に頷き賛同することによって自分の我を通すだけでなく、他人の意見も許容し自分の考えの中に取り入れ、本当の「自己の強さ」というものを発揮していたと思います。

（学生サポーター 大学4年 高石 裕土）


【ワークショップのすすめ方】

学習会のメインはワークショップです。あらかじめ宿題として、自分の考えの整理と本番で話したいことを考えてきてもらいました。子どもたちは、体験教室で感じたこと、疑問に思ったこと、提案したいことなど、それぞれの思いを書いてくれました。

ワークショップではグループに分かれ、学生サポーターが子どもたちと一緒に提案を考えました。

一緒に考える、といっても、「こうしたらいいと思うよ。」「こっちのほうがいいよ。」と、意見を誘導してしまえば、子どもたちの思いは出てきません。学生サポーターは子どもたちに対し、「どう思った?」「どうしたらいいと思う?」といったように、子どもたちの素直な思いを引き出すために、一生懸命子どもたちに寄り添いました。

子どもたちも、そんな学生サポーターと一緒に、一生懸命提案を考えてくれました。

はちおうじ子どもミーティング 

宿題 浅川についてこんなことを考えています!

学校・学年	名前

1. 体験教室に行ってみて、あなたが感じたことを教えてください。

2. 「浅川をこんな川にしていきたい」「もっとこんなことができるといいな」など、みなさんがいいと思う浅川の水辺のイメージを書いてください。

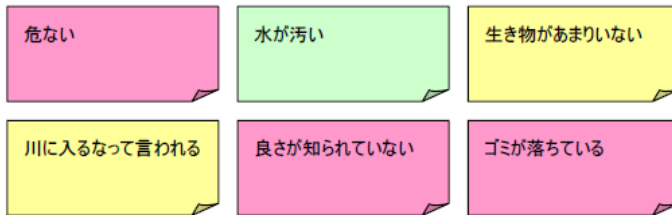
3. 市役所には川の仕事に取り組んでいる職員がいます。あなたがお話できるとしたら何を聞いてみたいですか?

4. 子どもミーティングではあなた自身が市長や教育長と話をします。どんなことを伝えたり提案してみたいですか?

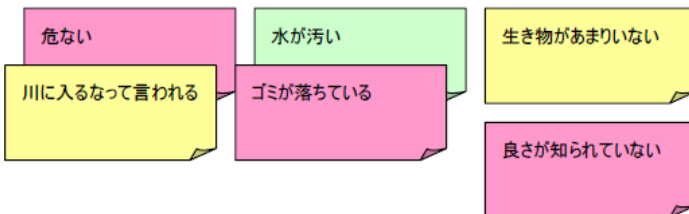
1 宿題を使って頭を整理。

ワークショップの進め方の例1 テーマ「川」

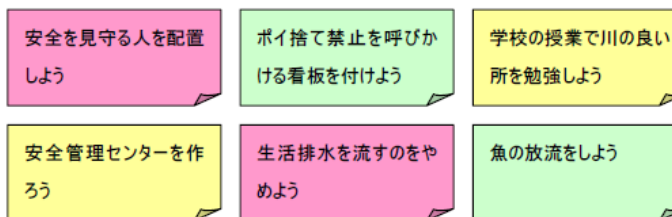
- ① 自分が考えてきた「宿題」の発表…提案したいことについて一言
- ② 「川」の課題って何だろう？…思ったことを付箋に書いてみよう



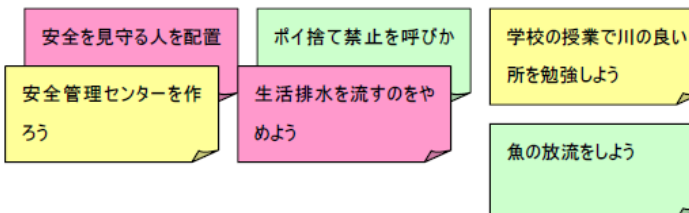
- ③ 同じ仲間で集めよう



- ④ どうしたらいいかを考えよう

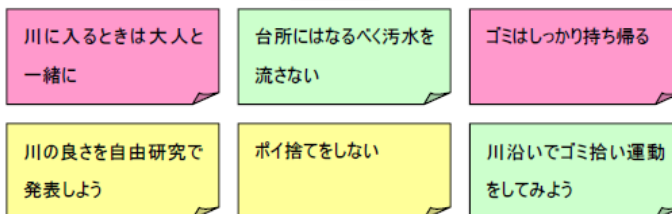


- ⑤ 同じ仲間で集めよう

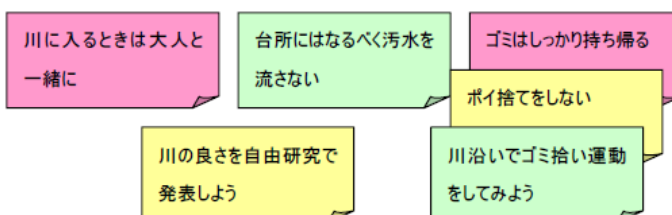


- ⑥ 自分達でできることは何？

ここが重要！



- ⑦ 同じ仲間で集めよう



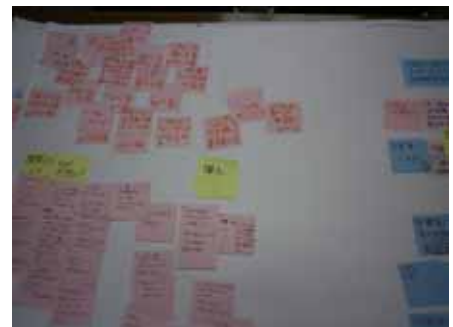
2 グループをつかって話し合い開始。



3 付箋をつかって意見を貼り出します。



4 貼り替えながらみんなの意見を整理。



5 だいたいまとまりました。

⑧ 子どもとして何から始めよう、何を提案しよう

ここが重要!

こんなふうと考えたら…

- (ア) 身近なところから始められる(家で、学校で、地域で)
- (イ) みんなで取り組める(私が、家族が、地域の人)
- (ウ) アピール性がある(「よし、やろう」と思える、「大切だ」ということが伝わる)

それぞれにタイトルをつけてみよう

「ゴミ拾い運動デーをつくろう」

「大人と子どもで、楽しく、安全な川遊びをしよう」

「川の勉強・交流会を開こう」

など。

意見・提案の作成(個人作業)

- ① 話した内容をまとめる。
- ② 各自ノートに自分の意見をまとめてみる。

宿題に続く



6 どのグループのマップも個性的です。

子どもミーティング2011

みなさんに最後の宿題です!

学年 学年 _____ 名前 _____

運川についてお集りにこんなことを書いて!

みなさんは今日の学習会を通じて、いよいよ市長や教育長とお話することになります。自分は何を書きたいのか、きちんと整理してみましょう。

■私が話すのは、1分30秒です。(〇〇を書いてみましょう)

■こんなことを書きます。(具体的に書きましょう、本意だけこれを述べて下さい。)

このシートは皆さんの今日の発言のものになります。内容によって子どものしあわせ課から事前にアドバイスのあるかも知れませんが、今日の最後に来るまで(コピーしてみんなに話します)。家でゆっくり考えた人は、8月11日(来週)まで子どものしあわせ課まで郵便かFAXで送ってください。

【送附の送り先】
 八王子市子どもしあわせ課 子どもミーティング事務局 〒192-8501 八王子市元本郷町3-24-1
 TEL: 042-626-7081/FAX: 042-621-7776 E-mail: 0052000@city.hachioji.liaisons.jp
 ※書き方わからなかったら事務局に聞いてください。



7 最後は自分の意見をまとめます。

子どもミーティング（8月21日）

今日はいよいよ子どもミーティング！

子どもミーティングの会場は第一小学校の視聴覚室です。朝早くからおとなたちが会場作りを必死で頑張り今年も素敵な子どもミーティング会場が出来上がりました。

会場作りが終わった頃には続々と子どもたちも集まり、昼食前には一度だけリハーサルをこなし準備は万端！

本番を迎えるにつれて子どもと学生サポーターは緊張するんだろうなと思っていたら、みんな楽しくおしゃべりをする和やかな雰囲気でした。子どもと学生サポーターは4回しか会っていないのにホントにみんな仲良しです。

そんな楽しいお昼休みを終えると子どもたちは、いよいよ観客の集まる子どもミーティング会場へ！

市長や教育長に自分の考えを子どもたちが発言！私はマイクを子どもたちに渡す係だったので自分の発言する順番が来ればみんな堂々と発言していました。

途中で休憩をはさみ、約3時間の子どもミーティングも無事終わり、机やいすを素早く片付けて、記念撮影！子どもたちを中心に市長や教育長、学生サポーターなどが写る写真はこの冊子に毎年使われています。

子どもたちとの活動はこの日で終わりのため、淋しい気持ちはありますが、夏休みを利用して行う子どもミーティングの活動は、子どもにとってもサポーターにとっても貴重な体験となっています。

今年も個性豊かな子どもたちと出会えた、良い夏休みでしたね！

（学生サポーター 大学4年 河瀬 昌昭）



本番前の控室。みんな意外とリラックス？



ついに本番！みんな準備はいいかな？



司会は学生サポーターの2人です。



みんな堂々と発表してくれました。



市長・教育長も、真剣に子どもの提案を受け止めてくださいました。

はちおうじ子どもミーティング

体験教室や学習会を終えて、サポーターと子どもたちの活動の集大成となる子どもミーティング当日を迎えました。今回は司会を担当することになり、朝から緊張しながらも会場となる第一小学校に着きました。会場作りを終えると、子どもたちが続々と集まってきました。緊張している子、本番で発言することを楽しみにしている子、お腹が空いて早くお弁当を食べたいと思っている子など子どもたちの表情は様々でした。リハーサルをして本番までの間、サポーターと子どもたちは昼食を食べながらリラックスした雰囲気でも話をしたり、遊んでいました。束の間の休息が終わりいよいよ本番へ。市長や教育長が会場入りし、市議会議員の方や保護者が集まると、子どもたちの表情が一転し真剣な面持ちになりました。そんな子どもたちの様子を見て、私も緊張している場合じゃないとパワーをもらいました。

ミーティングが始まると、子どもたちは順番に体験教室や学習会で感じたことや学んだことを基に自分の意見や質問を堂々と発表していました。そんな姿を見ていると何とも言えない感動が押し寄せてきました。

サポーターの面々も司会に限らず、タイムキーパー、音響、代読、受付やマイク担当など一人ひとりがしっかりと役割を果たしていました。本番が終わると子どもたちはホッとしたのかとても良い笑顔になっていました。ミーティングまでサポーターはお互いに議論を重ね、より良い形にしていこうと準備をしてきましたが、その笑顔を見た瞬間に私は今年の子どもミーティングは大成功だったなと思いました。子どもたちとサポーターと一緒に活動するのは数回しかありませんでしたが、少ない中でもお互いにコミュニケーションをとって和やかな関係を築けたと思います。

子どもミーティングの活動に参加して改めて感じたことが二つあります。一つは『十人十色』ということです。サポーターにしても子どもたちにしても、本当に様々な意見や発想があり、自分にとっても視野が広がりました。もう一つは、『一つの行事を開催するために多くの人に関わっている』ということです。子どもミーティングの活動では主役の子どもたちはもちろん、私たち学生サポーターや市の職員の方々、児童館職員の方々、体験教室や学習会でお世話になった水循環部の方々、保護者の方々など多くの方が携わっています。私もサポーターの一人として参加できたことを本当に嬉しく思います。

かけがえのない仲間や貴重な体験ができたことは私の誇りです。今後もこの子どもミーティングが終わることなく発展してほしいと切に願っています。そして参加した子どもたちが数年後に学生サポーターとして活躍してくれたら、これほど嬉しいことはありません。

最後になりますが、活動に際し、お世話になった全ての方々から感謝しています。本当にありがとうございました。

(学生サポーター 大学4年 三好 孝昌)



今年もいい発表だな。

子どもたちの提案

子どもミーティングは子どもたち一人ひとりが主役です。

発言は一人ずつ全員が行いました。

参加者は宿題や事前学習会を通じて、自分はどんな分野について発言したいかを何度も繰り返し直して、質問や提案を行いました。

また、子どもたちの発言には、すべて市長と教育長が答えました。

(五十音順)

名前	学年	要旨
大友 明日香	小 5年	ゴミを無くすため、ゴミ箱を設置すると良いと思う。 また、皆で集まり、ゴミ拾いを行えば良いと思う。
岡松 めい子	小 6年	下流は安全で人が沢山くるので、ゴミが多くなってしまわないかと考えた。 そこで、もっと下水処理場を増やし、川辺にゴミ箱を設置した方が良いと思う。 そうすることで、水と川辺がきれいになると思う。
小原 怜	中 2年	浅川にある標識を新しくしてほしい。今ある標識は汚く、言葉に説得力がない。 夕やけ小やけふれあいの里では標識が汚く、景観を損ねていたし、 北浅川溪谷では標識自体がなく、雑誌が沢山捨てられていた。 徐々に良いので、標識を新しくすることに取り組んでほしい。
加藤 龍太	中 2年	浅川でよく泳ぐ。何度も川に行っているのに、危険なところは見分けられることができる。 流れが速いところで泳ぐのが楽しい。 川の水が冷たい。
加藤 涼平	中 2年	バーベキューと釣りを一緒にできる場所がほしい。そのために水をもっときれいにし、 食べられる魚を川に増やして欲しい。 釣れないと困るので、浅川の釣り場や季節によって釣れる魚のガイドをしてほしい。 増水による事故を減らすため、広報やエリアメールで、夏だけでも川の状況や上流から 下流の天気を教えて欲しい。
金田 阿未	小 6年	小さい施設を作りおとなを配置して、子どもが流されても助けられるようにしたらどうか。 遊具の設置やイベント、ゴミ拾いのボランティア活動を行うと良いと思う。 そして、海水浴場のように、遊べる所と遊べない所を分けると生きものが大切にできて、 楽しい川になると思う。
楠元 玲香	中 2年	子どもを川での危険から守るために、監視室や救護室を作って欲しい。 また、ゴミを減らすため、学校や地域のボランティア活動を増やしたり、 ポスターを貼ったりしたほうが良いと思う。
工藤 瞳	小 6年	みんなに、浅川に興味をもってもらいたい。 そのために、看板やチラシ、広報などに浅川の具体的な情報をのせて、浅川のことをもっ と地域の人に知ってもらおうと良いと思う。
齋藤 未佳	中 2年	ゴミをなくすためにポスターを作り、貼ることを提案する。 理由は、特に下流にゴミが多いと感じたからである。 小中学生でポスターを書き、市によるコンテストを、賞品等を付けて開催すると良いと思 う。

はちおうじ子どもミーティング

佐々木 茜	中	2年	浅川を中心に、人がつながり、地域の絆が深まる提案をしたい。 ・土日:「ゴミ拾い」と「川遊び」を合わせたイベントを実施し、幅広い世代の方に参加してもらいたい。 ・平日:もっと立ち寄ってもらえるスポットにしたい。簡易テント等で日陰を作ったり、ベンチを用意するのはどうか。
佐藤 優香	小	6年	八王子の小中学校を対象に、浅川についての授業を増やすのはどうか。 そうすれば今の子どもがおとなになって、全国に行っても、浅川の宣伝をしてくれると思う。
鈴木 芳輝	小	6年	浅川の環境を守りたいので、浅川で花火をやっている人に、持ち帰るよう注意をする管理人を配置して欲しい。
高橋 勇喜	小	6年	もっときれいでゴミもなく、色々な魚がいれば良いと思う。 そのために、ゴミを捨てないことや、家庭排水を減らす取り組みをすると良いと思う。 これからは、浅川に行ってゴミ集め等をしたいと思う。
中川 貴就	小	6年	・「ゴミ拾い大会」を一月に一回行う。 ・学校の図工の時間に、浅川にゴミを捨てないように注意を促すポスターを作製。 各学校から優秀な作品を一つずつ選び、浅川の各場所に掲示する。 ・今回行ったような体験教室を開く。 以上の3つを進めることで、市民全体で「浅川をみんなで守っていこう」と思えるようになると思う。
中川 遥香	小	5年	浅川のゴミをなくすことと、花や木を増やすことを提案する。 そのために、ゴミ箱の設置や、地域のボランティアによる清掃等の活動を行うと良いと思う。また、花や木を植え、それを保護するための看板を設置すると良いと思う。
根津 友和	中	2年	浅川でよく釣りをする。きれいで、泳げて、楽しい川なので、浅川が好きだ。
平野 利希丸	中	2年	車の往来が激しい所があり危険なので、橋の下をそのまま通れるようにしてほしい。 自転車道と歩道が分かれているとより良い。 川沿いの桜並木が途絶えると木々のない場所も目立つので、緑をもっと多く植樹したり、可憐な花々を植えたりして、浅川の美しさを一段とアピールしたい。
増村 凧	小	6年	落書きをしないで欲しい。落書きをしている人がいたら注意をして、その注意された人も、注意をする立場の人になって欲しい。 監視カメラや街灯を付けると落書きが減ると思う。
松橋 卓未	小	6年	ゴミについて...市役所の周辺は特にゴミが多いので、バーベキューゾーンや花火エリア等を設置して、見回りをする人を配置すると良いと思う。 自然について...北浅川溪谷の「せき」の隣に30度くらいの傾斜を作り、魚が上り下りできるようにしてほしい。また、緑化にも取り組んで欲しい。 さらに、ピオトープ作り体験会等を開き、参加者にピオトープを作ってもらえるのはどうか。
山口 丈郎	小	6年	ボールを落としたときに拾うのが大変であるのと、火事の危険性もあるので、草刈をしてほしい。
山中 美幸	中	2年	浅川の良さを知らない人はたくさんいると思う。そこで、鉄腕DASHのような観察所があると良いと思う。 それにより、子どもの「理科離れ」を防ぎ、自然環境に興味を持つことで、自然環境の保護にもつながっていくと思う。

はちおうじ子どもミーティング



2011. 8. 21



子どもたちの声

終了後、参加した子どもたちから感想をもらいました。
(感想文は基本的に書いてあるそのままの形で掲載しています。)



小学5年 大友 明日香さん「子どもミーティング」

私がなぜ子どもミーティングに行ったかと言うと、中川さんに話を聞いておもしろそうだったからです。いったらほんとうにすごくおもしろかったです。さいしょはすごくきんちょうしました。けれどどんどんなれてきてしらないことはなせるようになりました。1番おもしろかったのは一回目の夕やけ小やけなどに行ったものです。水の速度など水がどれだけきれいかしらべるのもおもしろかったです。黒須市長さんと石川教育長と話すのがすごくきんちょうしました。そのときに私はあさ川にごみばこを作ればきれいになるといいました。黒須市長さんに言われたことにびっくりしました。その理由はごみばこを作るのはむずかしいといわれたからです。すごくいい勉強になりました。すごく楽しかったです。



小学6年 岡松 めい子さん「今までをふり返って」

私は、今回が二回目の参加になります。去年始めて行った時はとてもきんちょうしました。どんな人たちがいるのかなとか、仲良くなれるかなと思いました。けれども、みんなやさしくてすぐに打ちとけられました。

今年二回目の参加の初日もとてもきんちょうしました。去年も行ったけれど、今年はどうかなとか思いました。けれども、去年いた人や、今年初めて来た人もとてもやさしくてすぐ仲良くなれました。学生サポーターの人たちも、とてもやさしかったです。

市長さんと話すまでたくさんのことを学びました。あるときは友達から、あるときは学生サポーターから、あるときは市役所の人から学びました。とくに良かったのは、二日目です。実際に体験することによってこまかいところや、におい、手ざわりなどがよくわかりました。

市長さんと話す時は、きんちょうしましたが、しっかり自分の気持ちを言えました。

ここまでこられたのは、色々な人が協力をしてくれたからです。学生サポーターや、市役所の人たちにとっても感謝しています。四日間とても楽しかったです。

中学2年 小原 怜さん「中2の夏の思い出」

私は今年で子どもミーティング2年目です。兄は私が小学生の頃から参加していて、今もなおサポーターの会話に出てくる、とされているようなとてもたくさんの方々に印象をあたえるような人でした。でも私はそんな兄とは違い、あまり印象をあたえないような人です。とてもわがままで意地っばりでバカで考えなしです。そんな私をサポートは一生懸命支えてくれていました。本当に感謝感激です！！同じ班になった人も違う班になった人もみんなと楽しめました。特によっしー（学生サポーター）と一緒にすることが多くいつも「いつくらいから全身緑になるんだろ・・・。」と思ってました。（某ゲームのキャラクターと名前が一緒だから、ということです。）でも本当に最後の最後に「れいちゃん全身緑はムリだから！！」と言われてしまいました（笑）みんなの前で言われたので一本やられました。また、「5年目」というニックネームで一やく人気になったかわちゃん（学生サポーター）にもたっくさん面倒を見てもらいました。私の友達の2人がかわちゃんと同じ班で、3人でさわいでいて迷惑をかけました。でもすっごく遊んでいて楽しかったです（笑）本当に反省しているかどうかは問わないでください。私は親が許す限り、来年も参加するので、「6年目」として来年も来てください！！期待しています。

今回参加して下さったサポーターの方々にもありがとうございました、と言いたいです。来年もぜひ参加して下さい。

中学2年 加藤 涼平さん「大好きな浅川」

ぼくは小さいころからたくさん浅川で遊んでいます。幼稚園のころは川で石投げ、小学生のころは父とザリガニを採りました。採ったザリガニは家で飼育して卵を産ませたこともあります。小学六年生くらいからは、浅川にいる野鳥にも興味を持ち、休みの日には鳥の写真をたくさん撮りに行きました。そして中学生になった今、僕は釣りが大好きです。中学の友達と浅川で釣りをしています。

そんな時、僕が浅川を好きだと知っている中学の先生が子どもミーティングにさそって来て参加することになりました。子どもミーティングでは浅川が好きな人たちや浅川をよく知っている先生が集まって浅川について勉強しました。ぼくは、なぜ浅川でニジマスが釣れるのか？など不思議に思っていたことをたくさん質問することができました。

ぼくは子どもミーティングに参加してますます浅川が身近に感じられるようになりました。

小学6年 金田 阿未さん

実さいに川に入って深さを測ったり、とうめい度を測ったり、川の魚をとってみたいり、木の化石も見つけました。大きな石だったり、小さな石だったり色んな物を発見できました。川に入っであそんだり、いつも、一番最初にゲームをしたりしてたのしかったです。色々な勉強をしてきた大学生と一緒に勉強をしたり、あそんで、とてもたのしかったです。この子どもミーティングで学んだことは、夏休みの宿題にも使えたり、これからも、理科の授業などで活用できるので、やってよかったです。来年も、できれば参加したいです。今回は初めて参加して、何回もやった人は、最後の発表の時に色々な鳥や花や草の写真をとってきたりすごいことをしていたけど、こんどは、負けないようにがんばりたいです。

中学2年 楠元 玲香さん

私は、いつも学校の行き帰りに見る浅川はただ流れているだけだと思っていました。

でも、体験教室などで実際に浅川を見て調べてみて思っていた浅川とは全然違うことに気付きました。例えば、上流は浅川とは思えないほど水がきれいだったり、北浅川溪谷という素晴らしい場所があることです。北浅川溪谷は、本当にきれいで心を引かれました。私がよく見る下流も思っていた以上に水がきれいで驚きました。

私は今回の子どもミーティングで自然の美しさに触れることができ、本当に貴重な体験ができたと思います。

小学6年 工藤 瞳さん「ミーティングに参加して」

私は、ミーティングに参加して、たくさんの方に興味をもちました。今まで知らなかったことに気づいたり、疑問に思っていたことが解決したり・・・そして、なんととっても自分たちが上流や下流に行って、生き物を調べたり、速さを調べたり、比べてみたりできたことがとても良い経験になりました。

本番では、自分の意見をはっきりと市長に言えて、市長もそのことについて答えて頂いたので、自分の言った意見がいつか実行されたらいいなと、思いました。

私は、浅川が大好きです。でも、このミーティングに参加して、もっと好きになりました。来年も、また参加したいです。最後に、こんな素敵な体験をさせてくれた関係者のみなさまに心から感謝します。ありがとうございました。

中学2年 齋藤 未佳さん

わたしは、子どもミーティングに参加して、たくさんのことを学びました。

最初は、友達にさそわれて遊び気分でやっていました。でも、みんなは本気で真面目に取り組んでいる姿を見て、このままじゃだめだと思いました。学生サポーターの方々もわたしたちのために一生懸命に取り組んでくれました。とても心強かったです。

本番のとき、わたしの意見を実行してくれると聞いた時は、学生サポーターの方や市役所の方、いろいろな方々がわたしをサポートしてくれたからだと思います。本当に感謝しています。ありがとうございました。

ぜひ来年も参加したいです。

中学2年 佐々木 茜さん「浅川で繋がる未来、八王子」

私の通う第四中学校からは、浅川を眺めることができます。四中に入学してから、私は毎日浅川を眺めてきました。犬の散歩やランニングで行き交う人々、伸びた草を整備してくださる方々・・・私の好きな浅川の風景です。

8月1日の体験教室では、川の「透明度」を測る「透視度計」を使いました。(透視度とは・・・川の水がいかに綺麗で透明かを表すもの)私達が作った500mlの透視度計では測りきれず、本物の透視度計(縦1m、直径3~4cmくらいの筒)でも1m以上という結果になってしまう程、浅川の水は透明だということが分かりました。確かに中学の3階からでも、底が見えるくらい綺麗なんです。また、講師で東京都環境科学研究所の和波一夫先生も、『町の真ん中を通っている川で、こんなに綺麗な川は珍しい。』とおっしゃっていました。

その後、私は『川が憩いの場となり市民の方々の絆が深まってほしい』と、提言させて頂きましたが、その時に市長が、『絆』という言葉が良いと言ってくれたのが印象的でした。浅川で、市民の絆を強くすることができたら・・・。浅川から始まる絆が、八王子の将来へ繋ぎ、支えていくことができるなら・・・。私は、八王子が誇る浅川に無限の可能性を感じることができました。

また、私自身多くのことを学べ、とても良い経験になりました。本当にありがとうございました。

小学6年 佐藤 優香さん「子どもミーティングを終えて」

私の発表は、教育長が答えてくれました。そして市長も答えてくれました。私は、とてもおどろきました。何で？と・・・。

それは、学生サポーターのみなさんが、私の意見を引き出してくれたおかげなのかなと思いました。本当にありがとうございました。

一番印象的なのは、体験教室です。とても勉強になり、楽しかったです。小学校生活最後のとても良い思い出になりました。

小学6年 鈴木 芳輝さん「子どもミーティングに参加して」

ぼくは、子どもミーティングに参加して楽しいと思ったのは、2日目の浅川探検をするのが楽しかったです。

どんなところが楽しかったのかと言うと、浅川で川の速さを測ったり、透視度を測ったり、生物をさがしたりするのが楽しかったです。

浅川の上流にはなかなか行ったことがなかったので上流にはどのようなものがまわりにあるのかなどを見ました。

3日目の時に市役所の近くに川があるのは八王子くらいと聞いてびっくりしました。

当日は行けなかったけど子どもミーティングに参加できてよかったです。

いろいろ教えてくれてありがとうございました。

小学6年 高橋 勇喜さん

ぼくは子どもミーティングに参加して、本当に嬉しかったです。初めは知らない人やお兄さんお姉さんがいっぱいいたけど、お兄さんやお姉さんと実さいに話してみると、とてもおもしろい話をしてくれました。その時は、とても嬉しかったです。1回目は参加できなかったけど、2回目が一番楽しかったです。山口くんとおしゃべりしたり川の記録をしたりほんかく的にやっすごくきんちょうしました。わからない事はお兄さんやおねえさんがやさしく教えてくれるのはぼくもすごく嬉しかったです。

ぼくは子どもミーティングに参加して本当に良かったと思います。

小学6年 中川 貴就さん「子どもミーティング」

ぼくは、今年の「子どもミーティング」で、一番印象に残ったのは、体験教室です。自分で作った透視度計で、水質をはかったり、生き物を採集したりしました。ぼくが、おどろいたのは、浅川の上流、中流、下流の水質がほとんど変わらないことです。普通の川なら上流より中流の方が、中流より下流の方が汚いのに、浅川は、すべてきれいでした。

また、生き物がたくさんいたことにもおどろきました。上流、下流にそれぞれさまざまな種類の生き物が、生息していることが分かり、さらにその生活まで知ることができました。

ぼくは、二年目ですが、また新たに、さまざまなこと（川が近くにあるすごさ、川の大切さ）が分かり、とても勉強になりました。ありがとうございました。

小学5年 中川 遥香さん「子どもミーティング」

8月1日体験教室で浅川に調査をしに行った。同じ学校の大友さんと大野さんと同じグループだった。それと中2の男子と大学生のサポーターさんが3人でした。みんなでバスにのっていった。まず夕やけ小やけふれあいの里の中にある上流の川で水しつ調査や水生生物のさいしゅ、とおし度計を使って水がきれいかを見ることなどをやりました。またバスに乗ってキャンプ場まで行ってそこで急流を見ました。お昼ごはんを食べて市役所の前の川でライフジャケットをきて遊びました。楽しかったです。8月9日は事前学習会で市長や教育長に話すテーマを決めました。8月21日ついに本番！すご〜くきん張した。私の学校の校長先生と、5年の先生がきていた。大野さんは休んだのでちょっとざんねんだなあと思いました。子どもミーティングを通してこれからもっと浅川が楽しくなるといいです。

中学2年 平野 利希丸さん

僕は、3年前、八王子から連想する言葉は、高尾山や八王子祭りくらいでした。

小六の1学期に配られた1枚の緑の紙で、僕は子どもミーティングに参加することにしました。八王子は、ミシュランで三ツ星を獲得した高尾山のイメージがとても強かったのですが、子どもミーティングに参加し、自分の周りにある色々なものに気づき、八王子は、他にもたくさん特色にあふれることを学びました。例えば、緑のカーテンを実施している学校があること、滝山街道の道の駅は、地元の農産物を消費者に届けるために様々な努力をし成功を収めたこと、地産地消で八王子産の野菜を学校給食に使っていることなどです。もともと、八王子のことは大好きでし

たが、子どもミーティングに参加し、八王子についてじっくり学び、もっともっと八王子のことが好きになりました。

今回のテーマは浅川でした。浅川は、僕の住んでいる近くを流れている川なので、川沿いを走ったり、サイクリングをしたり、電車を見たりしていましたが、浅川について関心は薄く、深く考えたことはありませんでした。

しかし、この子どもミーティングで、浅川の普段気にも留めないことをたくさん学ぶことができました。例えば、以前は大変汚い水が流れていた浅川が、市の努力で、現在は、東京都の河川で7番目にきれいな水であることがわかったり、川の中には民有地が含まれていることなど、本当にへえーと思うことがたくさんありました。以後、浅川を見て、色々思うようになりました。そして、八王子を縦断する浅川は、市民にとって大切なもので、高尾山と同じように誇れるものと感じました。

今回もこの会に参加して、よかったです。

スタッフの皆さま、ありがとうございました。



小学6年 増村 溪さん「子どもミーティングで分かったこと」

私は、子どもミーティングの活動の中で、一番心に残っているのは、体験学習です。

体験学習で分かったことは、上流（夕やけ小やけふれあいの里）は、石が大きく、水がきれいで、きれいな水が好きな水生生物が多いことが分かりました。例えば、ヘビトンボのような虫や、カワゲラ、トビケラもそうです。中流（市役所前の浅川）は、石が小さくて、水は少々きたなく、コイやドジョウ、エビやアブラハヤなどが多くいました。

私は体験学習を通して、上流は、川の水がきれい。でも大きい石が多く、水深も深いうえに、流れが、速いです。上流に比べて中流は、少々水がきたなくとも石も小さいし、水深も浅いうえに、流れもゆるやかで、魚がたくさんいることが分かって良かったです。気をつけなければいけないことも分かり、良かったです。



小学6年 松橋 卓未さん「ミーティングで学んだこと」

ぼくは初めて子どもミーティングに参加しました。市内の小・中・大学生、市長、教育長、そして市の職員の方々とお話できて、いろいろと勉強になりました。水質調査や、水生生物調査などの体験ができてとてもよかったです。水質によってそこに住む生き物がちがう事を初めて知りました。ミーティングの後は、さらに浅川をきれいにするために、せっけんの量をなるべく減らしたり、学校の国語の授業の話し合いで、この浅川の事を発表題材にしたりしています。

またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。

小学6年 山口 丈郎さん

ぼくが初めて子どもミーティングに参加した時はきんちょうしました。

一回目は、よしきくんと一緒にやりました。最初はゲームをやりました。楽しかったです。

二回目は、浅川に行って水の流れや生き物を調べるのが楽しかったです。でも、つかれました。ゴミ拾いレースは楽しかったです。

三回目は、浅川についての勉強をしました。楽しかったです。

四回目は、八王子の市長と話をしました。とても、きんちょうしました。

中学2年 山中 美幸さん「子どもミーティングに参加して」

子ども議会を含めて、4回目の参加となる今回の子どもミーティング。今までのテーマの中で今回が一番身近に感じられることができた。今回のテーマは浅川。家のすぐ裏を流れる北浅川。すぐ表を流れ、浅川へと通じる城山川。すぐそばを流れているからこそ危険という理由で今まで近づくことを止められていた。しかし、今回を機に、川というものがどういったものなのかを考えさせられた。今と昔で川の何が違うのかを考え、知ることが今回できた。

来年も、受験生だが、都合が合えば参加をしたい。



浅川シンポジウムで発表しました！！

浅川流域 川の恵み シンポジウム

～未来の子どもたちにつなげよう～ (平成 23 年 11 月 6 日(日))

場所：学園都市センター イベントホール

平成 23 年 11 月 6 日、八王子市、日野市の両市による、浅川流域 川の恵み シンポジウムが開催されました。

八王子市、日野市を流れる浅川は、両市にとって貴重な財産です。この財産である浅川を未来の子どもたちにつなげていくために、八王子市と日野市が連携し、事業をスタートさせました。その連携事業の一環としてシンポジウムが開催されました。

その中で、子どもたちの水辺の活動報告として、八王子市からは子どもミーティングに参加した子ども 3 名が、浅川に対する提案を発表しました。学生サポーターも 7 名が壇上に上がり、子どもたちを支えてくれました。

子どもたちは、大勢の来場者に囲まれながら、堂々と発表してくれました。“母なる川”浅川の環境を守り、活用してゆくには両市の連携は欠かせません。子どもたちが、今夏に浅川について学び、考えたことを両市の大勢の市民の方々の前で発表できたことは、子どもたちにとって、また両市にとっても大変貴重な機会となりました。



みんな凛々しい姿を見せてくれました。



八王子市長・日野市長と、両市の子どもたちによる

今後の更なる連携を誓う握手。

“ 振り返りの時間 ” から (学生サポーター感想文)

学生サポーターは、今回子どもミーティングに参加し子どもたちと関わる中で、多くのことを感じ、考え、お互いに話し合ってきました。

学生サポーターとして初参加となる学生はもちろん、経験のある学生も、子どもと関わる上で多くのことを悩み、考えました。それは、子どもの思いを引き出すために一人ひとりに寄り添い、異なった考えを持つ一人ひとりの意見を尊重しなければならないからです。

そこで学生サポーターは、毎回の活動の後に、「こういう発見があった。」「こうすればもっと良いかも...。」といった振り返りを行い、思いを共有しました。そうすることで、次の活動の際に共通の認識を持ち、より、一人ひとりに寄り添うことができました。

その様な取り組みを行い、子どもミーティングの活動を支えてくれた学生サポーターに、子どもミーティング全体を振り返って思ったこと、感じたことを書いてもらいました。



大学4年 上田 雅友美

学生サポーターに参加したいと思ったきっかけは、市の広報でした。今思うと、当時大学3年生で、大学で自分が何を身に付けられているのかがわからず、進路に迷い、「何か」やらなければこのままあつという間に卒業してしまうという焦りに駆られていたような気がします。学生サポーターの募集案内を見つけたときは、何か少しでも変わることができるのではないかという「何か」への希望がありました。

募集案内を見つけたのが締切日の前日で、定員になり次第締め切るとのことだったので、急いで締切日ぎりぎりに子どものしあわせ課に駆け込みました。担当者が今出かけていて...そう聞いたときは「締切日ぎりぎりだったから縁がなかったのかな」と落ち込みながら帰ったことを今も覚えています。でも、何かのご縁で、こうして2年間活動に関われたことをとてもうれしく思います。

私は、とても出席率の低いサポーターでした。きっと、周りのサポーターからも出席率の低いサポーターと思われていたと思います。そして、すごく客観的に物事を見てしまう性格なので、楽しんでやっているように見えないとよく言われてしまいます。だからやっぱり心残りなのは去年も今年度も活動に授業や実習でなかなか参加できなかったことです。正直に言うと、もっと参加したかったです。

でも、その数回の活動に参加する中で、自分自身が変化していることに気が付きました。自分にしかわからない変化です。私は教員養成系の大学に通っていることもあって、今まで多様なボランティアや教育実習を通して子どもと関わってきました。しかし、どんなに子どもと関わっても「これだ!」という関わり方は見つかりませんでした。大学で勉強している中で、子どもに教え込むことが嫌だと感じ、自分は先生に向いていないと考えることも多くありました。学生サポーターがそれぞれ、一生懸命自分の考えを発言する子どもたちに寄り添い、同じくらい一生懸命

子どもの考えを引き出そうとしている場面を見て、自分次第で変わるかもしれないと思うようになりました。感覚でしかないのですが、子どもと一緒に考えていく教師になりたいと考えようになりました。周りの人には、そんなのは教師ではないと言われることもあります。でも、学生サポーターを通して感じた、子どもが真に考えていることを聞くことができる、そして自分の考えを堂々ときらきらした目で発言する子どもを見たときの喜びが消えないのです。一つの答えに誘導したくないと思ってしまうのです。この感覚を得られたことはとても大きいです。

参加してきてくれた子どもたちも、私のようにあまり楽しそうに見えてなくても実は楽しんでいる子や、すごく毎回来ることに勇気を出してきていた人や、積極的に学生サポーターと話せる人などいろんな性格の子が集まっていると思います。でもきっと一人ひとり「何か」を持って帰っていたと思います。何より、この経験は参加してこそ得られるものです。こうやって、多様な年代の人たちが関わり合っているはちおうじ子どもミーティングがある八王子の10年後、20年後は本当に明るいと思います。

子どもがいきいきと堂々と、八王子がこうなったらいいな！と言えるまちって素敵だし、そのまちに住んでいることは自慢です。これから社会人になっても、自分の住むまちへの関心を失わず、参加と責任を果たす積極的な市民生活を送りたいと思います。

最後になりましたが、冒頭に記したとおりぎりぎりでしたが、この活動に参加できたことでみなさんと出会い、多くの事を感じることができました。本当にありがとうございました。不器用な私ですが、とても楽しかったです。今後ますます、子どもミーティングが発展し「子ども参加」ができる八王子市になっていくことを願っています。



大学2年 粕谷 幸代

私は昨年から学生サポーターの活動に参加させていただきました。学生サポーター研修や子どもたちと関わる度に、毎回新しい発見や課題が見つかり、とても新鮮でした。

研修では学生サポーターの役割や子どもとの関わり方について学びました。学生サポーターは子どもに教えたりするのではなく、子どもに寄り添って一緒に考える「伴走者」です。私は、学生サポーターは子どもに何かを教える「先生」のような立場ではないと知って、気持ちが少し楽になりました。しかし、実際に子どもたちとワークショップをやると、「ファシリテーター」の難しさを実感しました。ワークショップはそれぞれが持っている考えを自由に出して、他の人のアイデアに触れて、自分の視野を広げたり深めることが目的です。なのでワークショップには、「こういう形に仕上げる」という完成像がないので毎回考えさせられます。そして、「あの時こう声かけをすればよかった」という反省点も残りました。

学生サポーターで話し合ったことは私自身、学生サポーターの活動について考えるきっかけになりました。

私は消極的な性格なので子どもと関わる日は不安でいっぱいでした。でも子どもたちが名前を呼んでくれたり、話しかけたら元気に答えてくれてとても嬉しかったです。子どもたちの元気な

笑顔を見ていると私も自然と笑顔になることができ、子どもたちから元気と笑顔を分けてもらった気がします。

学生サポーターの活動では、普段は学べないことをたくさん体験することができてよかったです。やさしい学生サポーターの方々や職員の皆様、明るく元気な子どもたちに支えられて学生サポーターを続けることができました。ありがとうございました。



大学3年 小松 詩歩

私は学生サポーターとして子どもミーティングに参加するのは3回目です。昨年までは経験豊富な先輩方の進める活動についていくので精一杯でした。あまり自分の役割も見出だせず、学校の予定があって参加すらあまりできませんでした。

今年は3年目ですが子どもミーティングでの経験は少なく、3年生、サポーター3年目という私は段々中心になって活動していくべき立ち位置になり焦りました。子どもミーティングの経験は少ないけど子どもミーティングはより良くしたい、という思いでできることをしようともがいた年でした。サポーター同士沢山集まって話し合いをしたり、電話で話したり、夜中まで話が終わらないことなどいつもでした。情報の共有がテーマで、活動に参加できなかった人に様子を伝えたり、自分の思いを共有したり、本当に沢山話をしました。子どもとの活動よりもこの沢山の話し合いの印象が強くて、本末転倒のような気もしますが、情報共有の大切さを学び、サポーター同士仲が深まり、集団として成熟したように思います。

子どもとの関わりは、なかなかうまくいかず、挫折感でいっぱいの結果となりました。やはり経験が足りず、ワークショップもうまくもっていけなかったように思います。子どもたちと沢山関わって、関係を築くことも本当に大切だと思いました。



大学1年 齊藤 由起

今回初めて参加した「学生サポーター」だったので、印象的だったことは多くあります。子どもたちの川で遊ぶ楽しそうな様子、他のサポーターの方の熱意、子どもミーティング本番の子どもたちの姿など、その中で私が最も心に深く残ったことは、子どもたちの純粋さでした。

今の子どもたちは、私たちの頃と違ってすごくおとなびてる、という話をよく聞いていました。通学途中に小学校の前を通る友人の話や、近所の小学生の服装などみると、「私の時と違うなあ」とつくづく思うものでした。それなので、子どもミーティングに参加する子どもたちと初めて会う日の前夜には、正直ひやひやしていました。どんな子どもたちなんだろう、大学生として気を引き締めて取り組もう、と自分の中でピリピリした思いを抱きながら当日を迎えました。実際はそのような心配は無用で、子どもたちは私たちの時と同じように、騒ぐし、歌うし、お喋りをし

ました。とてもホッとしましたし、そんな姿を見られて、とても嬉しかったです。そう知った後は、前日の緊張など忘れ、皆と一緒に楽しんでいました。

子どもミーティングに参加した子たちの見せた顔が全てでは無いと思いますが、私の中の現代の子どもの姿は大きく変わったし、子どもたちと長期間に渡って関わることができたので、参加して良かったと強く思っています。大収穫の夏をありがとうございました。



大学4年 齊藤 理恵

私にとって今回の子どもミーティングは一年ぶり、二回目の参加で、とても思い入れが強く、個人的に力を入れて活動していました。

前回参加した際はあまり頻繁に研修や子どもたちとの学習会に参加できなかったことが心残りであり、また現在大学4年生なので今年が最後の参加だったからです。

久しぶりに研修で学生サポーターのみんなや子どものしあわせ課の方々とお会いする時は緊張しましたが、みなさん以前と変わらず明るく声をかけてくれたのでとてもうれしかったのを覚えています。

本当にみんな明るくてフレンドリー。そして個性豊か。いろんな価値観・考え方を持った人たちが集まってこうして活動できたことがとてもうれしいです。刺激的でした。

いつだったか、市役所で遅くまで話し合った時はこの活動をみんながどんな風に考えているか、どれだけ真剣に考えている人がいるのか、様々なことを知り、改めて活動について考え直しました。そうすることで自分の中で何かが劇的に変わったわけではないけれど、周りの意見に触れることで、それ以前には気づかなかった部分に気を配れるようになったり、より相手の立場に立って考えられるようになる気がしたので、これから活動中きちんとした話し合いの様なものがあれば何かしらプラスになるのではないかと思います。

子どもミーティング本番は大成功でしたね！本番を終えて感じたことは...感動しすぎて何度も言っている気がします、子どもたちは私が思っている以上に学習会で勉強していて、自分の考えをはっきり持ちしっかりと発言することができるのだと驚かされました。子どもたちは制限のない発想を持っていて素直で、純粹で、かわいいと思いました。あんなにしっかりした子どもたちがこれから世の中に出て、どんな風に活躍していくのだろうか？と希望というか、期待のようなものも湧いてきました。

もしも提案が一つも通らなくても、これらを感じられるだけで子どもミーティングを開催する意味があるのではないかなと思う位です。

同時に、子どもたちの発想や意見を引き出してあげる私たちの役目も本当に大切なんだと改めて感じました。市役所の皆さまには研修を何度も開いて頂き、感謝しています。研修は大切だと思います。備えあれば憂いなしというか、良い表現が出てきませんが研修は足りないと言えませんが、多くても困らないというか...

とはいえ実際に子どもたちと接してみると子どもの反応次第で臨機応変に接していくことはや

っぱり難しいなあと思うことも多くあり、やっぱり実践あるのみ！という気がします。

なので来年は、子どもたちと交流する機会がもっと増えたらいいなあ。

大学院1年 酒巻 由佳

私にとって、今回は2回目子どもミーティングでした。ミーティングでは、子どもたちが「なるほど！」と思うような意見を市長の前で堂々と発表していて、驚きました。

去年までは、子どもミーティングとは「十人十色」ということを子どもたちが学ぶ機会であると思っていました。同じテーマに対する意見でも、子どもによって全く違う意見が出たり、発表の仕方もそれぞれ違って、一人ひとりに個性があり、みんな違っていいんだということ子どもたちがグループワークや発表を通して、理解できたらいいなと思っていましたが、今回の子どもミーティングでは、その子どもたちの意見をおとなが決して否定せずに、聞くということ学ぶ機会でもあるなと思いました。子どもが成長する場であると思っていましたが、ここはおとなが成長する場でもあるのかと感じ、改めて子どもミーティングの意義を感じました。

また、私にとって、学生サポーターという場所がすごく特別なものになりました。半年前まではお互い名前も顔も知らなかったのに、学生サポーターを通して、色んな学校で色んなことを勉強している人たちが集まって、いつのまにか学生サポーター全員にとって、居場所となっている気がします。

そして、子どもミーティングを通して、たくさんの市役所職員の方たちとも出会いました。このひとつの事業をとっても、多くの人に関わっていて、それぞれの想いを持って、色んな人の力が合わさり、ひとつの事業が創られていくんだなということ学びました。

最後に、学生サポーターを通して出会えた方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。これからも子どもミーティングと学生サポーターが続いていくことを強く願っています。

大学4年 島 可織

子どもたちの意見を聞き、その意見を受け止め、子どもが浅川がもっとこうなって欲しいという気持ちを深めるための学生サポーターの役割は、とても子どもにとっても近い存在でありながら、支える立場として子どもの思っている事を引き出すのは、簡単ではないと感じました。八王子の川や身近にある川を振り返り、次の活動で浅川を見に行く活動から、どれだけ浅川がきれいであるか調べたり、体で感じ、そして感じた事で気づいた事をまとめて意見を伝える活動までつながるように、私たちが子どもにサポートするはずが、私が考えてサポートするより、子どもたちが自ら、どのようにしていきたいか、一生懸命考えてくれました。あらためて、学生サポータ

一の役割とは何か考えた時、今考えている事を言葉にしてみよう、子どもに伝えよう、と思いました。それだけではなく、子どもが悩んだとき、よく話を聞き本当にやりたいことを子どもが自信を持って伝えられるようにしよう、と私は思いました。今回初めて学生サポーターを行い、とまどった点もたくさんありました。しかし、私たち学生サポーターが伝えたいと思って子どもに伝え、子どもと向き合えば、子どもも、私たちと向き合ってくれると学びました。とても多くのことを、子どもたちから学びました。ありがとうございました。



大学2年 玉城 雪乃

私が学生サポーターに参加したきっかけは、大学の先生と昨年までこの学生サポーターに参加していた先輩からの紹介でした。先生や先輩の話をうかがっているうちに「私も先輩みたいになれるかな!?楽しそうだしやってみたいな!」と思い応募しました。

今回の学生サポーターを含め、ボランティア活動も初めてのことだったのですべてが新鮮に感じました。特に私自身教員志望なので、福祉と教育で子どもに対する考え方や接し方の違いに最初は戸惑いを隠せませんでした。しかし、研修会やオリエンテーション等実際に子どもたちと活動していくうちに戸惑いは消え「ファシリテーターに限らず福祉も教育も、まず自分が子どもと一緒に楽しめないとい何も始まらない。」ということに改めて気が付かされると同時に、それができて初めて子どもたちの意見を引き出すことができるのだと痛感させられました。実際ファシリテーターの仕事は難しく、できたかと言われると厳しい部分が多く反省点も多いですが、一番大切なことに気が付けたのでとてもよかったです。また学校とは違い、答えが決まっていないことについて自分たちなりの答えを見つけ出すことの難しさやサポート側の視点について学べたのはとても自分の強みになったと思います。そして将来、教育と福祉の二つの顔を持つ教員になりたいと思いました。

学生サポーターに参加してたくさんの出会いと貴重な体験ができました。自分にはない意見や考えだけではなく、たくさんの繋がりもでき視野が広がりました。また授業以外で子どもたちと接するのは初めてだったので、また違った子どもたちの自然体な姿を知れたのでとても嬉しかったです。今後も学生サポーターに参加したことを活かして子どもに対する考えや接し方を自分なりのものに作りあげていきたいと思います。市の職員の方をはじめ、児童館職員の方や学生サポーターそして参加した子どもたち、本当にありがとうございました。

大学4年 増田 秋乃

私は今回初めて子どもミーティングに参加しました。始めは何をしたらよいのか分からなくて戸惑うことも多かったのですが、市役所の方々や他の学生サポーターの皆が温かく迎えてくれたおかげで、楽しく活動をすることができました。

また、子どもミーティングに参加したことで、初めて「ワークショップ」を知りました。同じテーマについて話し合っているのに、まとめ方・考え方が各々のグループで異なり、グループの色がはっきりと出ていて、尚且つ自分にはない考えを見つけることができるので、とても楽しく勉強になりました。

今回のテーマは「浅川」であり、普段特別に意識しないもので子どもたちにとっては難しかったかもしれません。しかし、「何を書いたらいいのか分からない」と言いながらも、実際に川に入って体験したことや職員の話を取り返りながら、一生懸命考えている姿にとっても感動しました。中には、私が思いもつかなかった意見を出す子どももいて、その発想の豊かさに驚きました。

私が学生サポーターとして心がけていたことは、「子どもたちの意見を引き出し、受け入れること」でした。子どもに「浅川に入ってみてどうだった？」というところから徐々にテーマに近づく質問を投げかけていたのですが、それが「誘導」になってしまっていないのか、子どもの意見を引き出せているのか、迷い考えながらの手探り状態でした。スムーズに子どもの意見を引き出したことの方が少なく、改めて子どもと関わることの難しさを実感しました。

学生サポーターを行い、たくさんの方々に関わり、子どもたちと触れ合い、悩み反省できたことで、また少し自分自身成長できたのではないかなと思います。本番の子どもミーティングに参加できなかったことが残念でなりません。

学生サポーターをして、本当に良かったなと思います。

大学3年 松田 ありさ

学生サポーターを始めて早三年が経ちました。本当に嵐のように過ぎ去っていきました。

大学生活は毎日がハードで、その上アルバイトもするととなると、朝の眠さは半端なものではありません。そんな生活の中、いつも心の拠り所になるのが、学生サポーターとしての活動でした。研修会・事前打ち合わせ・本番・報告集作成など、年間を通して、少し間を置いて集まる学生サポーターとしての活動は、学生という立場から少し大人になったような、シャキッとした気持ちになれる場所でもあり、子どもたちと会える期間は本当に楽しかったです。

今、学生サポーター一年目と比較してみると、自分も成長したなと感じます。一年目はまだ先輩サポーターがいたため、困ったことがあれば頼ることができましたが、そんな先輩方も今や様々な所で活躍されている社会人であり、今年頼れる存在といえば、今まで一緒にやってきた仲間、

市役所職員の方々、そして自分自身でした。そして一番大きかったことは、今まで一緒に活動してきた栗澤さんの異動だったと思います。今年の活動をする以前から、どうしていきべきか戸惑いがあり、とても不安だったことを思い出します。そのため、今年の子どもミーティング開催までに、学生サポーター同士、不満や悩みをぶつけ合うことが多かったです。子どものためだと思って重ねてきた話し合いも、結局は自分たち本意になってしまい、当初の“子どもの目線に立つて考える”ことが出来なくなっていた時期もありました。しかし、視野も広がり、良いところも悪いところも見えてきて悩むことの多かった浮足立った私を、いつも引き戻してくれたのは仲間でした。どんな小さな悩みや不安も、仲間がいるからそれをそれぞれに共有してくれ、だからこそ何でも言い合える仲になったのだと思うし、そういった仲間の大切さを私はすごく感じました。周りの人それぞれの輝きをたくさん見ることでできた活動でもありました。

もちろん、子どもたちとの活動も力も入れてきました。私は、養護教諭を目指しているので、“子どもの心に寄り添う”という共通の部分を中心に心掛けましたし、それを実践していくことで子どもの言葉で意見を言うてもらうことができたのではないかと思います。私よりも長く子どもミーティングを経験している子もいたため、そういった子に助けてもらうことも多く、大人も子どもを支え合っただけでなく、『はちおうじ 子どもミーティング』だと感じます。

今まで、こうして頑張ってきて本当に良かったと思っています。来年もできる限り活動し、学んできたことを様々な形で還元していこうと思います。市役所職員の方を始め、児童館職員の方々、学生サポーターのみんな、栗澤さん、そして“子どもミーティング”に参加してくれた子どもたち、本当にありがとうございました。私は、みなさんがいてくれたから、頑張ることができました。



大学3年 安野 果歩

私は今年で2回目の参加でした。去年は子どもと一緒に活動することができませんでした。今年には子どもと活動することができました。研修で勉強してきたサポーターの役割、配慮事項、子どもミーティングの意味。研修でやってきたことが私のなかでやっと繋がりました。

実際に一緒に子どもと活動することができて、とても楽しかったです！最初は普段接することの多い幼児ではなく児童だったので戸惑いだけでした。みんな子どもの純粋さを持ちながらもおとなになりかけている、おとなになりたいような微妙な年頃だなあ。と私もその頃を思い出していました。

川で思いっきり遊んで、テーマの浅川を知るところから始まりました。みんな同じ活動をしたけれど、提案は一人ひとり違う。それが認められ、表明する場があることが子どもミーティングのすばらしいところだと思います。私自身、子どもたちの発表を聞いて「こんな考えもあるのかー。」と感心するばかりでした。発表する姿もとてもキリッとしていて本当に素晴らしかったです！来年は一人ひとりの良いところを引き出せて、子ども同士を繋げてあげられるようなサポーターになりたいです。



高専5年 吉野 弘敏

私は、昨年度に引き続き二年目の学生サポーターとなりました。

昨年は専門外ということもあり、事前研修の内容から子どもミーティング本番まで全てが新しく感じ、周りの先輩方についていくのに精一杯になり一年間が過ぎていきました。そのため、何か特別に出来たわけでもなかった悔しい一年となりました。

そして五月、今年度の学生サポーターの活動が始まり、「子どもと一番近いサポーター」を目指し、昨年のように後悔しないよう何をするときでも積極的に取り組むように心掛けながら研修を受けました。多少、環境の変化に動揺した部分もありましたが、新しい発見もあり終始楽しく研修を終えました。

しかし、子どもたちと事前学習会で行うワークショップの練習も行う中で、自分の気付いた事があっても自分よりキャリアがあり、教育を専門としている人に自分の思っていることを話したら失礼になるのではないかと考えることもあり、悩んだ時期もありましたが、「お互いを高めるためにはそれを言ってあげることも必要なのでは？」と周りのサポーターのアドバイスを貰い、少し気持ちが楽になり昨年憧れていた「よりよくする努力」をする一員になれたことに喜びを感じていました。

そして、子どもたちと実際に会うようになり、見慣れた子どももいましたが初めて来てくれた子どもに一人ひとり声をかけていく中で、徐々に緊張が解けていく様子が冷静に見え、その時に初めて昨年よりは少し気持ち的に余裕ができていと実感しました。そこから、自信を持って体験学習などを終えました。ワークショップでは、サポートではなく自分が進めるワークショップを初めて行い、想定外の事が起き自分がパニックを起こしていると子どもたちにも顕著に伝達する事や楽しみながら進める難しさを痛感しました。

ミーティングの本番前には、子どもたちが皆、市長さんや教育長さんを前に極度の緊張をしていましたが、本番には自分の意見をはっきりと自信を持って発言している様子を見て、昨年も同じ体験をしましたが、感動を覚えました。

こうして本番を終え、子どもたちとも会わなくなった今、落ち着いて今年の活動を振り返ってみますと、初めは昨年との違いを感じ不安になったこともあり、サポーター皆で話し合ったことでもあります。今年は今年のメンバーらしい活動ができ、また私も自分なりにできる事を最大限にできた年だったかなと思います。まだまだ、先輩サポーターのように人をまとめたり、落ち着いて全体を見渡して適切に行動がしたりする事は修業が必要だとは思いますが、来年以降も自分を高めるために継続して活動を続け自分らしい働きができればと思います。

水再生課・水環境整備課から

メッセージをいただきました

今回の子どもミーティングのテーマは浅川ということで、浅川の水辺活用に取り組んでいる水循環部と一緒に、子どもミーティングの活動を行いました。そして、子どもの提案の中の「標識も川の一部である。」という言葉をきっかけに、水循環部をはじめ、関連所管が標識・看板の点検、立替に取り組みました。

ここでは、子どもミーティングに最初から最後まで関わってくださった、水再生課と水環境整備課の職員からいただいたメッセージをご紹介します。

水再生課 中島 國夫

みどり豊かな山々で育まれた清らかな水は、ひとすじの流れから豊かな川の流れとなり海へと注ぎます。やがて海から蒸発し、雨となって森のみどりを潤しながら再び大地から浸み出します。その自然の流れの中で、水は大地を潤し、たくさんの命を育み、彩り豊かな自然環境や景観を作り出します。

私たちの生活の中で水はとても大切な役割をしています。昭和 30 年代以降まちづくりの近代化が進み、人々の生活は豊かにそして便利になりましたが、水を取り巻く環境のバランスは崩れ、浅川をはじめとした河川の水質は悪化しました。また、山林や田畑であった場所に建物が建ち、道路が舗装され雨水が地下に浸み込みにくくなり湧水も枯れたり、河川の流量も減り魚や水生生物も生息できなくなりまた、豪雨時の河川の急激な増水やはんらんなどの問題も起きています。



本来の自然な水のめぐりが悪くなってしまったことに対応するために市では平成 22 年 3 月に水循環計画を策定しました。また、「浅川」を「高尾山」に次ぐ八王子の宝とし、浅川の資源を最大限に活かした水辺の活用策を検討する「浅川の水辺活用プロジェクト」を立ち上げました。今回の子どもミーティングでは、その「浅川」をテーマとして取り上げ、将来の水辺づくりの担い手である子どもたちに「今」の浅川を知ってもらい、これから何をしたらよいのかを一緒に考えました。

体験学習では夕やけ小やけふれあいの里に行き、川の流れに足を入れた時、上流の水の冷たさに驚き、浅川渓谷では普段見慣れた浅川とは全く違う急な流れと景色に感動している姿が見られました。そして、市役所前で水しぶきを上げながら遊び、目を輝かせて水生生物観察をしている子どもたちの姿は、見ている私たちも楽しく自然と笑みがこぼれてきました。

浅川は、利根川などの大きな河川と違い、「人が容易に水辺に近づくことができる」魅力を持つ

ていること、多様な生き物が生息していることなどを、子どもたちなりに感じ取ったのではないかと思います。さらには、その河川環境を守ることの必要性についても理解をしてくれたのではないかと思います。



子どもたちの提案は、どれも子どもの視点でとらえた素直で貴重な意見であり、これからの政策の参考になるものばかりでした。

また、子どもたちが体験を通してまとめ上げた提案を、市長・教育長に述べる姿は、頼もしくもありました。

水循環計画の基本理念に『人と水との良き環をつくり 次世代へ水の恵みをつなげていく』とあります。今回の子どもたちの提案を真摯に受け止め、八王子の宝である浅川を未来の子どもたちへつなげるよう、今後の政策に生かしていきます。

水環境整備課 谷口 哲也

今回の子どもミーティングの体験学習で、子どもたちに感じ取ってほしかったことのひとつが、「川の持つ表情」です。川は上流域や中流域それぞれの場所によって様々な違いを見せてくれます。水質や、そこに棲息する生きものだけでなく、「明るさの違い」、「水の冷たさの違い」、「音の響き方の違い」、「匂いの違い」、そして「全体的な景観の違い」など、数値では表しにくいものを五感を通して感じ取ってほしいと考えました。

そのような中、ミーティングで出された提案「標識がきたなくて、大切な部分が読み取れなくなっていたり、きれいな川にしたいのに標識がきたないせいで言葉に説得力がなく、実行する人が少ない」、「夕やけ小やけでは、周りの風景はとてもきれいだったのに標識がとてもきたなく、きれいな川が少しきたない風景に見えた。川にあるもの全てが川の一部なのです」にはハッとさせられました。私たちは、無意識のうちにフィルターを通して景色を見ていたのかもしれませんが。しかし、子どもたちは、鋭敏な感覚でそれを感じ取っていたようです。

振り返ってみれば、景勝地などに立つ無粋な看板に、興ざめしてしまったなどという経験を持つ人も少なくないと思います。

この提案を受けて市長から、浅川を始め市内すべての川の看板の点検の指示が出されました。

まず、浅川については、8月25日から31日にかけて点検が実施されました。指摘があった夕やけ小やけの古い看板は、すでに撤去されていました。

引き続いて浅川以外の15の河川についても点検が行われました。



川沿いを歩いてみると、文字が消えて読めないものや、破損したまま放置されている看板が多

いことに驚かされました。何年もの間、このような状態にあったのだろうと思われるものも数多くありました。



大人は気がつかなかったり、気がついてそれ以上気に留めなかつたりというもの、子どもの目には、景観を台無しにする障害物として映っていたのだと思います。

「川にあるもの全てが川の景観構成要素である」という発言の趣旨は、川の景観を考える上で、実を射たものであったと思います。

浅川及び南浅川については、調査数 913 件のうち「改善の必要あり」は、146 箇所へのぼり、各看板の設置者に対して、改善の要望書を提出しています。

子どもたちが体験を通して感じ取ったことが、市を動かし川の美化につながる流れを作ったことは、素晴らしいことだと思います。この経験を大切に、地域の未来の担い手としてこれからも先入観にとらわれない素直な目を持ち続けてほしいと思います。

【点検で改善の必要ありとされた看板例】



水循環部の方々には、浅川で水に濡れても着替えられるようにテントを張っていただく等、様々な協力をいただきました。

学生サポーターの活動

子どもの活動と参加

「元気なまち はちおうじ」を目指す本市が、「活力があるまち」「人が住みたいと思うまち」と考えた時、子どもという存在は不可欠ですが、子どもは八王子に住みたいと思っているのでしょうか？このまちに愛着があるのでしょうか？おとなになった時またこのまちで暮らしたいのでしょうか？

市は「小さな市民」のためにどんな機会を与え、市民としての意識を育ててきているのでしょうか？

「**子どもの権利条約**」は、子ども自身が権利の主体であることを明確にし、おとなと同等に市民としての積極的な社会参加を行うことを保障するものです。ここでの重要な視点が第12条の「**子どもの意見表明権**」です。そこには「自己の意見をまとめる能力のある子どもに対して、その子どもに影響を与えるすべての事柄について、自由に自己の見解を表明する権利を保障し、かつ、子どもの意見は、その年齢および成熟度に従い、適正に重視されなければならない。」と記されています。これは、子ども自身が生活や生きることについて「**自己決定を行う権利**」です。

その点から**子ども議会**や**子どもミーティング**を単なるイベントとしてではなく、「**子ども参加**」の権利を保障するものであり、**子どもの自立のプロセスに関わるものである**という考え方を、取り組みに関わるすべてのおとなが理解している必要があります。

子どもに機会をつくっても、「子ども参加」がおとなによって意図的に仕組まれたものであっては意味がありません。子どもの活動はおとな側の仕掛けによって、“それらしくできてしまうもの”であり、発言や結論を誘導することが可能だからです。実際、子どものかかわる活動には「**子どもの意見も聞きました**」的な参加とも受け取れる場面もまだまだあるように思えます。

子ども議会、**子どもミーティング**は、こうした課題に取り組んできた他市のすぐれた事例を参考にしたり、実際に活動を手がけた方にアドバイスしてもらいながら、おとなと子どもの間に入る「学生サポーター」を育成、彼らによる活動支援を行いました。研修では、子ども観や市の子ども施策と合わせて、子どもの活動支援はどうあるべきか、ということが議論されました。このことは、自分がどんな役割を持ち、どのように子どもの活動と向き合っていくのかを問うことでもあります。直接子どもと関わる以上、その対応がまちまちであったり、共通理解のないままに活動が進められることや、中には活動当日だけに参加するという人がいることには活動全体に大きなリスクがあるのです。

学生サポーターにも、いくつかの段階があります。たとえば活動当日だけに参加する「**いるだけ**」レベルは、活動の運営上も言われたとおりに行動するという形にならざるを得ません。何が子どもにとっていいことなのかを考えながら関わる「**自分から進んで**」レベル、さらには子どもの自立のプロセスに寄り添う「**伴走者**」レベルにはサポーターとしての学習が不可欠です。この点において、彼らは事前に何度も研修を行い、活動の前に綿密な打ち合わせとサポーター同士の意見交換を行うことで、活動に参加する子どもたちの伴走者としての役目を果たしました。彼らの書いた「**振り返り**」を読んでいただければ、子どもを支えるという目的で集まっていながらも、その子どもたちとの出会いによって短期間で着実にサポーター自身が成長している、ということに気づいていただけたと思います。

はちおうじ子どもミーティング

このような継続的で丁寧な活動の上に成り立った学生サポーターと子どもたちの育んだ信頼関係に支えられて、今日の私たちの「子どもの参加」活動があるのです。

自分の住むまちについて「リアルに」知ること(どうなってるの?)、疑問に感じること(どうしてそうなの?)、働きかけること(こうしたらいいと思う)に子どもが取り組むことは、「子どもも市民である」という行政の自覚であり、5年後10年後には確実に一人のおとなとなる次世代に対しての基礎自治体の責任でもあります。

市はこれらの取り組みの評価を踏まえ、子どもの目線を大切に、市民としての「子どもの参加」の活動に取り組んでいく必要があると考えます。

子どもの参加を支える学生サポーター

学生サポーターは子どもミーティングを支えた公募による大学生のグループです。子どもを支える援助者となって活躍してもらえよう、子どもとの関わり方や市政の知識、ワークショップでのファシリテーターの役割などの研修を積み、サポーターとしてのスキルを身につけてきました。知識やテクニックはもちろんですが、実際に活動に参加しながら「子どもにとって何が大切か」「私たちは何ができるのか」を感じとることのできる、頼もしいお兄さんお姉さんでした。彼らがいなければ子どもミーティングの実現は難しかったでしょう。



学生サポーターの研修

第1回 5月27日(金) 内容:「私たちの子ども観について考えよう」

第2回 6月24日(金) 内容:「子どもに関わるおとなの役割」

第3回 7月2日(土) 内容:「子どもを支援するおとなのために」

自己紹介のあとの
記念撮影!



私たちの班は・・・



「ファシリテーターとはなんぞや」と心に秘めながら、初めて参加した学生サポーターの研修は、今年三回の研修会にわたって行われました。子どもミーティングの場で子どもが意見を発表するのが最終到達であり、そこまでの過程がどれほど重要であるか、そして私たちファシリテーターがどれほど子どもの発見とひらめきの援助ができるか、ノウハウを学びました。

子どもの意見を引き出すには欠かせないワークショップの「ブレインストーミング」という手法でファシリテーターは水先案内人を担います。子どもが出したどのような考えでも貴重とし、多くの意見と関連を結び付けアイデアを深める、実際に問いかける言葉が適切でないと行き詰まったりし、とても難しい役目です。「これは変だよ、間違ってる」「つまらない考えだね」など、否定や断定的な批判は日常でもしてしまいがちです。しかし、ここでは己の考えを押し付けずに、いかに子どもの視野を広げてあげることがポイントです。教えるのではなく、子どもから教わる・聞く姿勢で臨むこともファシリテーターとして大切ではないかと思えます。

ファシリテーターのことや子どものかかわり方だけでなく、今回のテーマ「川」についての川の現場で起こり得る問題を想定した研修も行いました。学生サポーターは子どもの安全に配慮することも不可欠です。川の深さや勢い、冷たさの程度は、検証してみなければわかりません。危険度の目安を認識することは、「子どもを守る」という私たちの意識向上に繋がりました。

子どもと一緒に活動するまでに、子どものこと、ファシリテーターのこと、学生サポーターのことを学び、次に吸収した知識をどう生かしていくか、実践的なスキルを必要とします。得たノウハウは社会に出たときや日頃の会話でも大いに役に立ちます。研修で得たものは絶大です。子どもの意見を引き出すにはまだまだ力量不足ですが、子どもの素直な考えを尊重することと人の考えを否定しない、これらが私にとって今回強く実感したことでありました。

(学生サポーター 大学1年 野添 琢人)

学生サポーターの研修では、実際に児童館で働いている職員による研修も行われました。この研修では、2名の児童館職員に講師をしていただきました。

『子どもの現場』である児童館の職員として、どのような思いを持って研修を行ったか。子どもを支える学生サポーターに対し、どのような思いを抱いたか。

コメントをご紹介します。

館ヶ丘児童館 中川 香澄

子どもミーティングの学生サポーター研修において、「子どもの現場『児童館』」というタイトルで、子どもと関わる現場の職員の立場からお話させていただきました。

いくつかの例として、児童館でボランティアをするときに「子どもたちのこんな場面にであつたらどうするか」ということを考えていただくことで、イメージを膨らませ、「子ども」「子どもと関わること」の理解を深めていただきたいという思いでした。

学生サポーターのみなさんが、実際に子どもと関わった時に困った体験や、「それでよかったのだろうか？」という思いが残った体験をぶつけ合っのディスカッションなど、学生サポーターのみなさんの一生懸命考える姿勢が印象的でした。手探りながらも、自分なりの関わり方を探し求めていくということ、その真摯な姿勢や思いが子どもたちに伝わり、当日の子どもたちの姿につながったのではないのでしょうか。

私に関わることができたのは、たった数時間の研修でしたが、少しでも学生サポーターのみなさんのお力になっていれば幸いです。



川口児童館 白田 好彦

4年前、私は学生サポーターとして本事業に関わりました。多くの方々から助言を頂き、毎回、子どもとの関わり方について仲間と意見を交わしたなかで、今思えば子どもに対する接し方が少しずつ変わっていった気がします。

「子どもミーティング」の裏で行われている、言わば「学生ミーティング」において、学生たちは子ども支援に必要な要素、如いてはファシリテートにおいて大切な要素を、それぞれ感じ取っていました。相手の話を聞き、共有するだけでなく、時には自分の意見を発表する。私たち職員の話はあくまできっかけに過ぎず、得た知識を、学びに高めているのは彼ら自身の力でありました。

公募で集まった学生が、高い志を持続させながら、事業が終わるころには少し遅しくなってそれぞれの活動に繋げていく。なかなか表に現れにくい成果ではありますが、確実に1人、2人と、子どもを支える支援の担い手が増えていくことを今後とも期待します。



学生サポーターより

学生サポーターの役割は、単に言われたことをこなせばよいという、受動的なものではありません。子どもたちを支えるには、自分で考え仲間と話し合い、自発的に、情熱を持って活動に取り組まなければならないのです。

そんな情熱を持って子どもミーティングに関わってくれた学生サポーターの中には、何年も続けて参加してくれている学生がたくさんいます。彼ら・彼女らは、今年初めて参加した学生サポーターにとってはもちろん、私たちにとっても非常に頼もしい存在でした。

その中で、学生サポーターとして平成21年度から3年間に渡り、子どもミーティングを支えてくれた2名よりコメントをいただいたのでご紹介します。

学生サポーターの情熱

大学3年 上野 夏美

学生サポーターとは、子どもミーティング本番まで子どもを様々な角度から援助する事を主な目的とした大学生のグループです。

学校、学年、性別はもとより、将来目指すものすらバラバラな個性豊かなメンバーが毎年集まります。

私たちは、実際に子どもたちと関わる前に特別講師を招いて子ども理解に関する講話を受けたり、子どもたちが学習会で使用する形式のワークショップを体験するなどの研修を行っています。

2011年度は5月の終わりから活動が始まり、6月に1回、7月に2回、子どもたちに会うまでに会議を行いました。

どんな事を行ったら子どもたちの意見が膨らむだろうか、どんな環境で学習する事が適切か、などという事について、市の担当の方と一緒に考え、「子どもたちがよりよく活動できる」という事を念頭に方針を決めていきました。

学生サポーターのメンバーは全員、子どもミーティングに対し、並々ならぬ情熱を持って取り組んでいます。

研修で納得・理解できなかった部分や提案などを個人的に市の担当の方とやりとりを行ったり、学生サポーター同士で学校の授業後などに時間を取り、話し合いをする事もあります。

子どもの意見をまとめるためにより良いシステムを追求する者、子どもとの穏やかな関わりを基盤にコミュニケーションを充実させる者、子どもミーティング全体の環境に心を砕く者...子どもミーティングに対する志は同じでも表し方は様々です。

そのために、誰もがより良い活動を追求するがために意見のぶつかり合いが起こる事もあります。しかし、ぶつかり合う事はお互いの考えをより深く理解し、良い部分を吸収し合い、メンバー全体のステップアップにつなげていく大きな糧となっていますので私たちはその点で遠慮がありません。

はちおうじ子どもミーティング

自分の考えをまっすぐにチームに投げかける、それをまっすぐに受け止める事ができる雰囲気
がサポーター内にあるからこそできる事ではないかと感じています。

学生サポーターは子どもたちの「先生」ではありません。

以前特別講師にいらして下さったある先生は学生サポーターの事を「伴走者」であれとおっ
しゃいました。

「伴走」とは共に走者の側を走るという事です。

一見、簡単な事のように見えますが、走者のペース、走り方のスタイル、得意なコースなど、
共により良いゴールを目指すには考えなければいけない事、知る必要がある事が沢山あります。

私たちには最初から子どもたちと「伴走」する技術はありません。

市の担当の方と話し合い、実際に子どもたちと関わりを重ねる事で初めて知る事が沢山ありま
す。子どもたちから学ぶ事も少なくありません。

そのプロセスを重ねる事で少しずつ「伴走」する事が可能になります。

その点で一個人の意見ですが、学生サポーターは「子どもと共に成長していく」側面を持って
いるのではないか、そしてその「成長」に必要なものこそ「子どもミーティング、子どもとの関
わりへの情熱」ではないだろうかと思います。



3年間の活動を振り返って

大学4年 齊藤 良平

私が学生サポーターを始めて3年が経ちました。私が学生サポーターに応募したきっかけは市の広報で募集案内を見て「面白そう!」と思ったことです。それから私はそのとき初めて知った「子どものしあわせ課」に話を聞きに飛び込みました。

こうして勢いよく参加を決めたものの、大学では法律を学ぶ私は子どもと触れ合うことについては門外漢であり、苦労の連続でした。それでも教員や保育士を目指す人も多い他の学生サポーターたちや子どものしあわせ課の方々を参考にして格闘してきました。

私が苦労した理由の一つは、活動において“半分おとな”の学生サポーターやおとなは子どもに意見をしないからです。子どもに意見し指示をすることはとても簡単ですが、子どもミーティングは一人の市民として参加している子どもたちに自分なりの意見を考え、発表してもらい、それをまちづくりに活かすと同時に子どもの社会参加を促す活動です。したがって、意見は子どもたちが自分で考え発表しなければ意味がありません。そのために私たちは情報を提供しても意見は言わずに、子どもたち自身の意見を引き出すことに専念し、ただひたすら子どもたちを信じて待ちます。この待つことがとても忍耐のいる作業です。子どもたちとしては不安かもしれませんが自分の可能性を模索し実現する上で、自分で考え発表するというプロセスは必要不可欠だと思います。子どもたちの可能性を伸ばし、主体的な思考を促すにはこの待つことが重要なのだと感じました。

もちろん、小学生・中学生の子どもたちが自分で市長や教育長に発表する意見を考え、それを多くの人々がいる中で発表することは容易ではありません。子どもミーティング当日の様子をご覧になった方は想像もつかないかもしれませんが参加する子どもたちは公募により集まってくるために十人十色で、気の強い子も弱い子もいます。しかし、子どもたちは自分なりに立派にやっけるのです。この子どもたちの多彩な顔ぶれがはちおうじ子どもミーティングの良さでもあり、私は子どもの可能性の大きさに常に驚かされ、またやり遂げた後の子どもたちの達成感溢れる笑顔が見たくてこの活動を続けてきました。

子どもミーティングでの子どもたちの可能性と成長は本当に驚異的で、子どもたちは私が考えていることのはるか上を常に行きます。そんな子どもたちとともに、私たち学生サポーターも大いに悩み、時にぶつかり、議論し成長しています。子どもミーティング自体もテーマを変えながら回を重ねるごとに成長しており、年々様々な変化が起きています。子どもミーティングがさらに発展し、参加する子どものみならず学生サポーターや周囲のおとなたちも含めてまち全体で成長していけたら、こんなに素敵なことはないでしょう。将来、参加してくれた子どもたちが八王子に興味を持ち主体的にものを考えられるようなおとなになったとき、どのような変化が八王子に起きるのか今から楽しみです。

最後に、子どもミーティングが行われるまでには多くの方々の支えがあり、初めてこの活動は成り立っています。この活動を支えてくださっている多くの方々、またこの活動を通じて出会った子どもたち、学生サポーターを含めた多くの方々に心より感謝を申し上げます。この活動に参加しなければ経験し得なかった数々の貴重な体験がありました。本当にありがとうございました。

子どもは社会の宝

子どもミーティングは、子どもの成長をサポートしたいという共通の思いで多くの人々が関わり、取り組まれています。

その中で、子どもの活動支援のプロとして、子どもを支え、寄り添うにはどうしたらよいか、最初から最後まで子どものことを考えながら、子どもミーティングに取り組んできた児童館職員からのメッセージをご紹介します。



中野児童館 井垣 利朗

子どもは社会の宝です。社会の希望です。一人の人格者であり社会を構成する立派な立役者でもあります。子どもが自由に自己の考えを発することのできる社会。その意見に対して受容できるおとながいる社会。それが八王子市の目指す「子育てしやすいまちナンバーワン」ではないでしょうか。

私は児童館職員として、地域と子どもを結び付け、子どもの健全育成のために遊びの提供や居場所づくりを行っています。また、子どもの自己形成や自己実現のために地域と協力し、サポートを行っています。

どんなに小さくても子どもの中には、必ずおとなの部分があります。かけがえのない一人の人格であるということを忘れてはいけません。おとなが子どもを成長させるのではなく、また伸ばすのでもありません。主役はあくまで子どもたちです。一緒に考え、一緒に伸びるように心がけが必要です。子どもの伴走者である「学生サポーター」は、その考えを理解し、関わってくれました。私はこの学生サポーターと共に「互いに信じること」を大切なキーワードとし、子どもの側に立つコーディネーターとして、事前学習会から本番まで子どもミーティングを進めてまいりました。

本番では、私が市長や教育長と子どもの意見交換のコーディネーター役でした。子どもたちは緊張をしていましたが、自分でまとめた意見を堂々と発言していました。事前の体験学習で、他人の意見を聞きながら自分の意見をまとめるプロセスの中で、葛藤や不安を乗り越えてきたからでしょう。

子どもたちは「見守られている」ことを感じると成長するものです。また、本来持っている可能性を開花させます。どのような嵐の後でもきれいな花を咲かせるのです。そのためには、温かな眼差しが必要です。学生サポーターは子どもに光を降り注ぐために、自分自身を見つめ、何度も仲間と打ち合わせをし、葛藤と不安でつぶれそうになる子どもに寄り添ってきました。

小学生は発言ができた達成感を得て、次回はもっと成長して参加しようと決意していました。中学生は、今度は自分が学生サポーターになって子どもたちの伴走者になりたいと話していました。このようにして次世代につながっていくことで、子どもを見守る社会、子どもの意見表明ができる社会が構築されるのだと実感しました。

今後、時間はかかると思いますが、子どもミーティングは年に1回ではなく、日常のありふれたものへと形を変えていくことでしょうか。子どもとおとなの井戸端会議でしょうか。家庭の中での家族ミーティングでしょうか。親子対話でしょうか。

地域のいたるところで子どもが自由に意見を述べ、受容され、すこやかに育つ社会になることを期待し、今後の子どもミーティングの発展を楽しみにしています。

名簿 (五十音順)

平成23年度子どもミーティング参加者

小学生 大友 明日香
大野 楓
岡松 めい子
金田 阿未
工藤 瞳
佐藤 優香
鈴木 芳輝
高橋 勇喜
中川 貴就
中川 遥香
増村 溪
松橋 卓未
山口 丈郎

中学生 小原 怜
加藤 龍太
加藤 涼平
楠元 玲香
齋藤 未佳
佐々木 茜
根津 友和
平野 利希丸
山中 美幸

学生サポーター

稲葉 麻衣子
上田 雅友美
上野 夏美
粕谷 幸代
河瀬 昌昭
小松 詩歩
齊藤 由起
齊藤 理恵
齊藤 良平
酒巻 由佳
島 可織
高石 裕土
玉城 雪乃
野添 琢人
畑野 智子
増田 秋乃
松田 ありさ
三好 孝昌
安野 果歩
吉野 弘敏

子どもミーティングに協力していただいた方々

体験教室

東京都環境科学研究所 和波 一夫 氏
水循環部
夕やけ小やけふれあいの里の皆様



学習会(所管課ヒヤリング)

東京都環境科学研究所 和波 一夫 氏
水循環部



子どもミーティング

市長 黒須 隆一
教育長 石川 和昭

水循環部長 穴井 誠二
学校教育部長 坂倉 仁

市立第一小学校 川上 卓一 校長
徳丸 幸夫 副校長
教職員の皆様



写真提供

広聴広報室 広報担当





平成23年度
はちおうじ子どもミーティングの記録

発行 八王子市
平成23年12月
編集 こども家庭部子どものしあわせ課
〒192-8501
東京都八王子市元本郷町三丁目24-1
042-620-7391(直)
FAX 042-627-7776
E-mail b082600@city.hachioji.tokyo.jp